

目次

ファームウェアV3.10の新機能.....	2
常時TC CHASE ONで運用できる設定の追加.....	2
ファームウェアV3.00の新機能.....	2
タイムカウンターディマー機能を追加.....	2
ホーム画面にAUTO READY機能およびシアタープレイ機能の再生設定状態を表示する機能を追加.....	3
マークポイントを登録できないようにロックする機能を追加.....	4
マークポイント登録時/ロック時のポップアップメッセージ表示をON / OFFする機能を追加.....	4
時間表示モードにABS時間表示モードを追加.....	5
プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面にエントリー番号表示/タイムカウンター表示/タイムモード切り換え機能を追加.....	6
プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面でのカレント時刻と一致したマークポイント名表示.....	6
外付けキーボードのF5キーによる、プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面への切り換え機能.....	7
INPUT MONITOR画面とREC FUNCTION画面でのIndividualモード時の操作性向上.....	7
先頭テイクに移動するボタン操作を追加.....	9
コール機能を追加 (リモコン操作のみ).....	9
ファームウェアV2.20の新機能.....	10
同一テイク内でのシアタープレイ機能.....	10
ファームウェアV2.10の新機能.....	11
カスケード機能に対応.....	11
INFORMATION画面にカスケード状態の表示を追加.....	16
ファームウェアV2.00の新機能.....	17
プレイリスト機能に対応.....	17
シアタープレイ機能を追加.....	26
AUTO READY機能を追加.....	27
カレントフォルダーの全テイクでのタイムコード同期再生に対応.....	28
32bit PCM形式/ 32bit float形式のWAVファイルの再生に対応.....	28
テイクリストのソート機能を追加.....	28
ホーム画面メニュー機能を追加.....	29
マイメニュー機能を追加.....	30
mDNS (Multicast DNS) に対応し、ネットワーク接続を簡単化.....	31
VNCサーバーの2種類の圧縮転送フォーマットに対応.....	32
メニュー画面“REC FILE FORMAT” ページの“FILE NAME” 設定に“None” を追加.....	32
メニュー画面のSNTPページに現在日時を表示を追加.....	32
INFORMATION画面にカレントフォルダー名の表示を追加.....	32
録音中にバッファオーバーフローが発生した場合のマークポイント設定.....	32
マスタークロックに同期していないときの表示方法の変更.....	32
BWFファイルのBEXTチャンクデータにTrack Namesなどのメタデータを追加.....	32
BWFファイルにTrack NamesなどのメタデータのiXMLチャンクデータを追加.....	32
ファームウェアV1.50の新機能.....	33
TRACK NAMES機能を追加.....	33
ファームウェアV1.40の新機能.....	35
アナログ出カインターフェースカード TASCAM IF-AN16/OUT対応.....	35
ファームウェアV1.30の新機能.....	37
iPad 専用リモートコントロールアプリケーション TASCAM DA-6400 Control対応の追加.....	37
AES/EBUインターフェースカード TASCAM IF-AE16 対応の追加.....	37
SMPTEタイムコードに同期してカレントテイクを再生する機能の追加.....	38
リピート再生機能の動作モード・VAMPINGモードの追加.....	39
1チャンネルごとの入出力信号ルーティング設定の追加.....	40
NO SIGNAL エラー確認機能のオン/オフ設定の追加.....	42
ボタンの長押しで録音を停止させる機能の追加.....	42
ファームウェアV1.21の新機能.....	43
Danteインターフェースカード TASCAM IF-DA64対応.....	43
取扱説明書・追補.....	43
FTP接続する際の注意事項.....	43
機能説明追記/変更.....	43
誤記訂正.....	44

ファームウェアV3.10の新機能

ファームウェアV3.10より、次の機能を追加しました。

- 電源を入れ直したときやメディアを入れ替えたときなどにCHASE MODEを自動で「OFF」にする仕様でしたが、常に「ON」で運用できる設定を追加しました。

常時TC CHASE ONで運用できる設定の追加

詳細は、38ページ「SMPTEタイムコードに同期してカレントテイクを再生する機能の追加」を参照ください。

ファームウェアV3.00の新機能

ファームウェアV3.00より、次の新機能を追加しました。

- ホーム画面のテイク名を目立たせるためにタイムカウンターを暗くするタイムカウンターディマー機能の追加しました。
- ホーム画面にAUTO READY機能およびシアタープレイ機能の再生設定状態を表示する設定を追加しました。
- マークポイントを登録できないようにロックする機能を追加しました。
- マークポイントの登録時/ロック時のポップアップメッセージ表示のON / OFFする機能を追加しました。
- 時間表示モードにABS時間表示モードを追加しました。
- プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面にエントリー番号/タイムカウンター表示/タイムモード切り換え機能を追加しました。
- プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面において、カレント時刻と一致したマークポイント名を表示するようにしました。
- 外付けキーボードのF5キーを押すことで、プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面に切り換える機能を追加しました。
- INPUT MONITOR 画面とREC FUNCTION画面でのIndividualモード時の操作性を向上させました。
- ■ ボタンを押しながら◀◀ [MARK ◀◀] ボタンを押す操作で、先頭テイクに移動できるようにしました。
- コール機能を追加しました。(リモコン操作のみ)

タイムカウンターディマー機能を追加

ホーム画面のテイク名を目立たせるためにタイムカウンター表示のみを暗くする、タイムカウンターディマー機能を追加しました。

タイムカウンターディマー機能の設定

メニュー画面に追加された“PREFERENCES 2”ページの“TIME COUNTER DIMMER”項目で設定を行います。

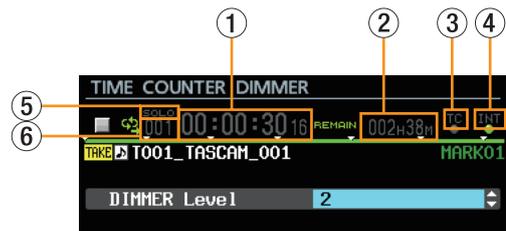


“DIMMER Level”

ホーム画面のタイムカウンター表示部の輝度を設定します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	タイムカウンターディマー機能を無効にします。
1 ~ 8	タイムカウンターディマー機能を有効にし、タイムカウンター表示のみを暗くします。大きな数字ほど暗くなります。

- “DIMMER Level” の設定で暗さが変化するホーム画面のタイムカウンター表示部の文字



- ① タイムカウンター
- ② メディア残量
- ③ TCインジケータ文字
- ④ オーディオクロック名
- ⑤ SOLOインジケータ
- ⑥ テイク番号

メモ

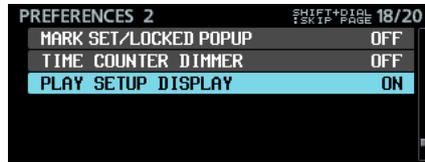
“TIME COUNTER DIMMER”画面の上部には、ホーム画面と同等のタイムカウンター表示やテイク名などが表示されます。これらの表示は“DIMMER Level”の設定にしたがって暗さが変化するの、見え方を確認しながら設定を変更することができます。

ホーム画面にAUTO READY機能およびシアタープレイ機能の再生設定状態を表示する機能を追加

ホーム画面にAUTO READY機能およびシアタープレイ機能の設定状態を表示する機能を追加しました。

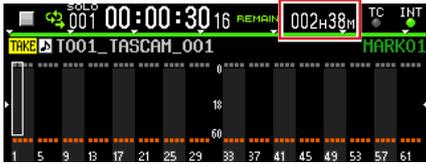
再生設定状態を表示する設定

メニュー画面に追加された“PREFERENCES 2”ページの“PLAY SETUP DISPLAY”項目で設定を行います。



“PLAY SETUP DISPLAY”

ホーム画面での再生設定の表示モードを選択します。

選択肢	内容
OFF (初期値)	メディア残量を表示します。 
ON	AUTO READY機能およびシアタープレイ機能の再生設定状態を表示します。 AUTO READY機能は“ A.READY ”と表示され、シアタープレイ機能は“ THEATER ”と表示されます。 該当の再生機能が有効な場合は青い文字で表示され、無効な場合は灰色の文字で表示されます。 

メモ

“PLAY SETUP DISPLAY”項目が“ON”に設定されている場合でも、以下の状態では再生設定は表示されず、メディア残量やメディア状態が表示されます。

- ・ 録音時、録音一時停止時（メディア残量を表示）
- ・ SSD未装着、SSD読み込み中、SSD未フォーマット等、再生できない状態のメディアの時（メディア状態を表示）

マークポイントを登録できないようにロックする機能を追加

マークポイントを登録できないようにロックする機能を追加しました。

ロック機能の設定

“LOCK SETUP” 画面に追加された “MARK SET LOCKOUT” 項目で設定を行います。



“MARK SET LOCKOUT”

マークポイント登録操作のロック設定を選択します。完成版のテイクに対してマークポイントを登録したくない場合などは、“Enable” に設定します。

選択肢	内容
Disable (初期値)	マークポイント登録操作のロック機能を無効にします。
Enable	マークポイント登録操作のロック機能を有効にします。

メモ

- “MARK SET LOCKOUT” 項目が “Enable” に設定されている場合、マークポイントの登録操作を行うと下記ポップアップメッセージが表示されます。



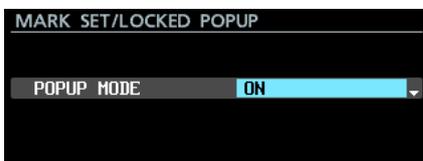
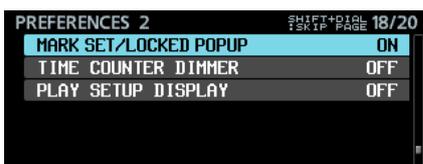
- 上記ポップアップメッセージやマーク登録のポップアップメッセージを表示したくない場合は、メニュー画面 “PREFERENCES 2” ページの “MARK SET/LOCKED POPUP” 項目を “OFF” に設定します。

マークポイント登録時／ロック時のポップアップメッセージ表示をON / OFFする機能を追加

マークポイントの登録時／ロック時のポップアップメッセージ表示のオン／オフ設定を追加しました。

ポップアップメッセージのオン／オフロック設定

メニュー画面に追加された “PREFERENCES 2” ページの “MARK SET/LOCKED POPUP” 項目で設定を行います。



“POPUP MODE”

マークポイントを登録時の “Mark point set” とロック時の “MARK SET Locked” のポップアップメッセージ表示のオン／オフを選択します。

選択肢	内容
ON (初期値)	該当するポップアップメッセージを表示します。
OFF	該当するポップアップメッセージを表示しません。

メモ

マークポイント登録エラーに関わる下記ポップアップメッセージは、この設定に関わらず常時表示します。

- 既存のマークポイントと同じ時刻に既にマークポイントが登録されているため、新しいマークポイントが登録できなかった際のポップアップメッセージ
Cannot create new mark point.
Mark point already exists at the same timestamp.
- マークポイント数が制限に達してマークポイントが登録できなかった際のポップアップメッセージ
Cannot set Mark point.
Mark limit reached.
- 対象ファイルが読み取り専用設定されていてマークポイントが登録できなかった際のポップアップメッセージ
Cannot set Mark point in read-only file.

時間表示モードにABS時間表示モードを追加

時間表示モードに、音声ファイル先頭からの経過時間を表示する“ABS”を追加しました。



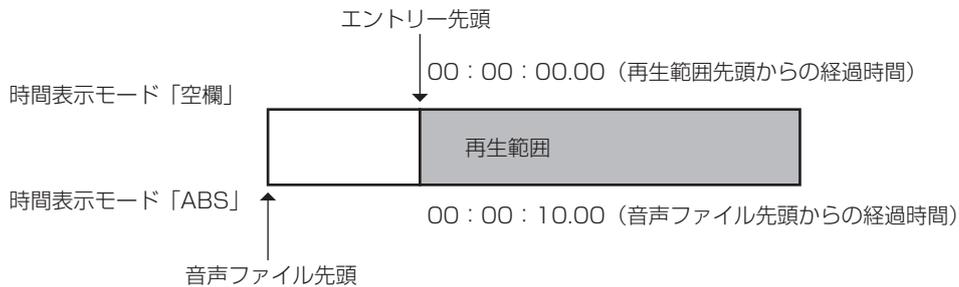
時間表示モード	表示内容
空欄	再生時は再生中のテイク／エントリーの再生範囲先頭からの経過時間、録音時は録音中のファイル先頭からの経過時間を表示します。
REMAIN	再生時は再生中のテイク／エントリーの再生範囲の終わりまでの残り時間、録音時は最大ファイルサイズまでの残り時間を表示します。
TOTAL	再生時は再生対象の総経過時間、録音時は既存テイク／エントリーの総時間＋録音経過時間を表示します。
TOTAL REMAIN	再生時は再生対象の総残り時間、録音時は録音可能残り時間を表示します。
T/C	録音・再生テイクのタイムコード時刻を表示します。
ABS	録音・再生中の音声ファイル先頭からの経過時間を表示します。

メモ

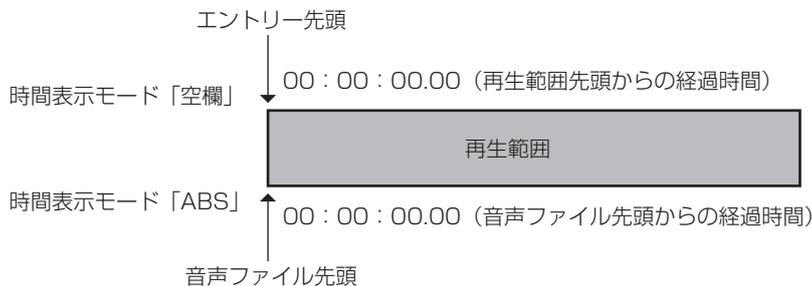
- プレイリストモードでSTART POINT（再生範囲の先頭）を変更しているエントリーの場合、時間表示モードが「空欄」のときのタイムカウンターは、エントリーの先頭（再生範囲の先頭）からの経過時間を表示します。
時間表示モードが「ABS」のときのタイムカウンターは、エントリーの先頭（再生範囲の先頭）からの経過時間ではなく、エントリーにアサインされたテイクの先頭（音声ファイルの先頭）からの経過時間を表示します。

例：START POINT：「00h00m10s00f」に設定されたエントリー先頭でのタイムカウンター表示

時間表示モードが「空欄」	00:00:00.00（再生範囲先頭からの経過時間）
時間表示モードが「ABS」	00:00:10.00（音声ファイル先頭からの経過時間）



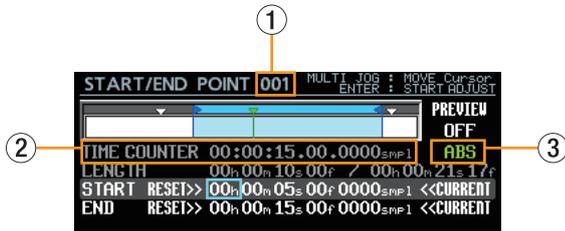
- プレイリストモードでSTART POINT（再生範囲の先頭）を変更していないエントリーの場合、「再生範囲の先頭」と「音声ファイルの先頭」が同じになるため、時間表示モードが「空欄」と「ABS」で、表示される時間は同じになります。



- テイクモードでは「再生範囲の先頭」と「音声ファイルの先頭」が常に同じため、時間表示モードが「空欄」と「ABS」で、表示される時間は常に同じになります。

プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面にエントリー番号表示／タイムカウンター表示／タイムモード切り換え機能を追加

プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面に、以下を追加しました。



- ① エントリー番号表示
- ② タイムカウンター表示
- ③ タイムモード切り換え機能

エントリー番号

編集対象のプレイリストエントリー番号を表示します。

タイムカウンター

緑色の“▼”のバーが示す現在の再生時刻を、タイムモードにしたがって表示します。

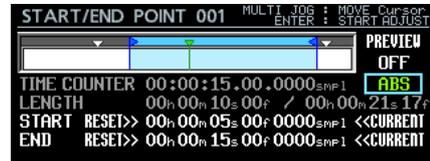
タイムモード

タイムカウンターに表示する時刻のモードです。

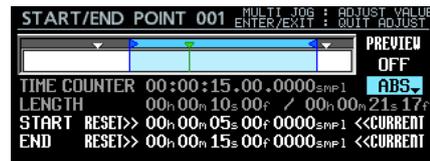
選択肢	内容
ABS	プレイリストエントリーの音声ファイル先頭からの経過時間を表示します。
T/C	プレイリストエントリーの再生タイムコード時刻を表示します。

操作手順

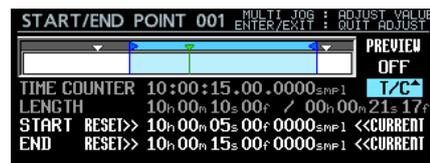
1. MULTI JOGダイヤルを回して、枠カーソルをタイムモードに移動します。



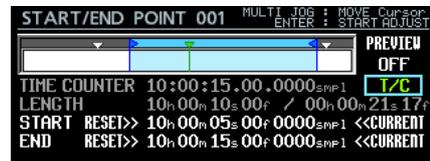
2. MULTI JOGダイヤルを押して、塗りつぶしカーソルに切り換えます。



3. MULTI JOGダイヤルを回して、設定を変更します。

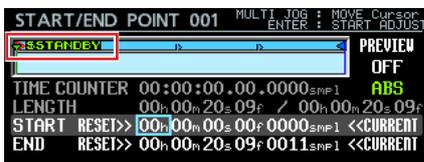


4. MULTI JOGダイヤルを押して、変更を確定します。



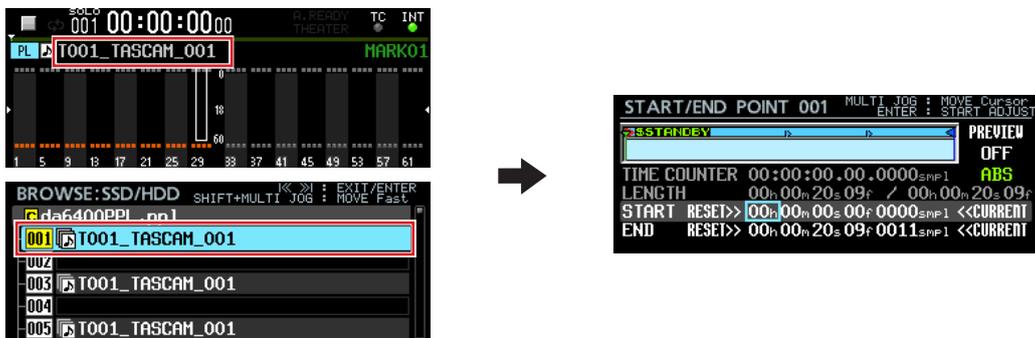
プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面でのカレント時刻と一致したマークポイント名表示

プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面において、カレント時刻と一致したマークポイントの名前をマークアイコンの横に表示するようにしました。



外付けキーボードのF5キーによる、プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面への切り換え機能

USBキーボードまたはVNCビューアー経由のキーボードのF5キーを押すことで、ホーム画面に表示されているカレントエントリー、またはプレイリストエントリーリスト画面で選択したエントリーからプレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面に切り換えます。



INPUT MONITOR画面とREC FUNCTION画面でのIndividualモード時の操作性向上

“INPUT MONITOR”画面と“REC FUNCTION”画面でのIndividualモード時の操作性を、下記のように向上させました。

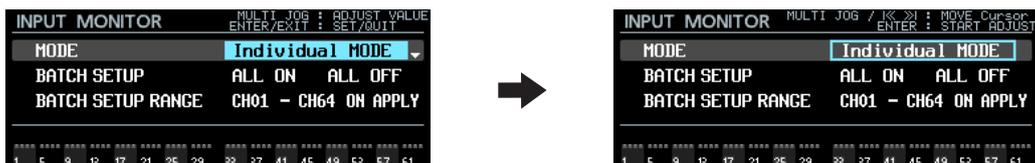
- MULTI JOGダイヤルだけで、各チャンネルを個別設定する画面下部までカーソル移動できるようになりました。これにより、VNCでリモート操作する際にホイール付きマウスだけで各チャンネルの設定を変更できるようになりました。
- Individualモードでの各チャンネルの設定を、簡単に“ALL ON”または“ALL OFF”に設定できるようになりました。
- 一括設定の際、指定チャンネルが“ON”、指定しなかったチャンネルが“OFF”に設定されるようになりました。

操作方法

本バージョンの“INPUT MONITOR”画面と“REC FUNCTION”画面でのIndividualモード時の操作方法は、他の画面と若干異なります。なお、操作子の割り当ては、画面右上に表示されます。



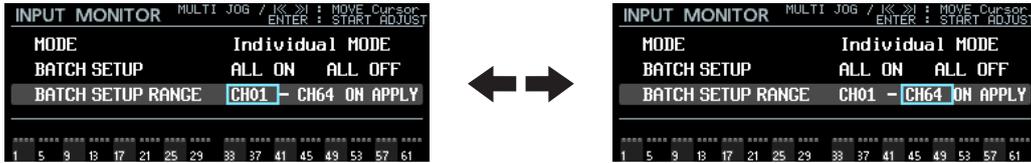
“MODE”項目を“Individual MODE”に変更してMULTI JOGダイヤルを押すと、塗りつぶしカーソルが枠カーソルに切り換わります。



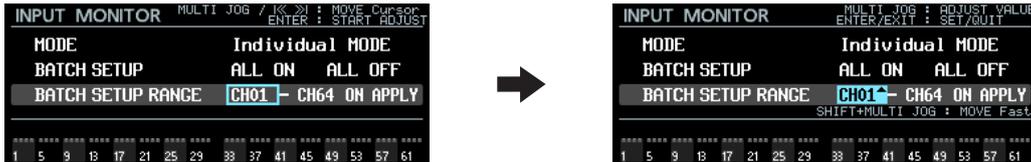
カーソルが、“MODE” 設定、“BATCH SETUP RANGE” の “CH***” の位置にあるときの表示と操作

● 枠カーソルが表示されている場合

- MULTI JOGダイヤルを回す、または◀▶ボタンを押すと、カーソル枠が移動します。

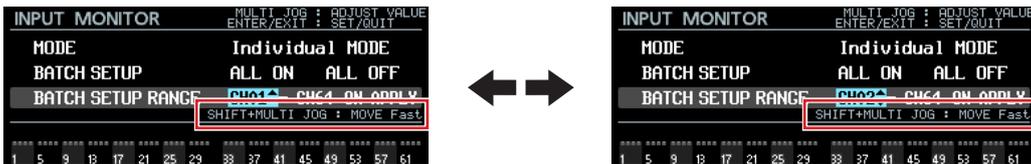


- MULTI JOGダイヤルを押すと塗りつぶしカーソルに切り換わり、設定が変更できる状態になります。

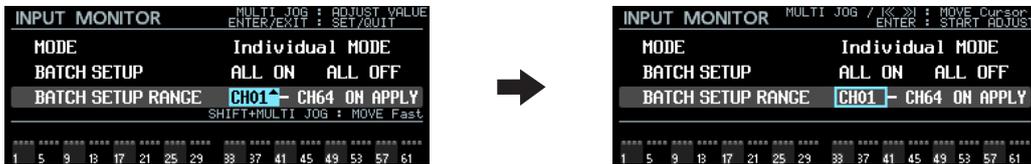


● 塗りつぶしカーソルが表示されている場合

- MULTI JOGダイヤルを回すと、カーソル位置の設定が変更されます。
- “BATCH SETUP RANGE” の “CH***” の位置では、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、大まかな設定動作(MOVE Fast動作) をします。



- MULTI JOGダイヤルまたはEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、枠カーソルに切り換わり、カーソルが移動できる状態になります。

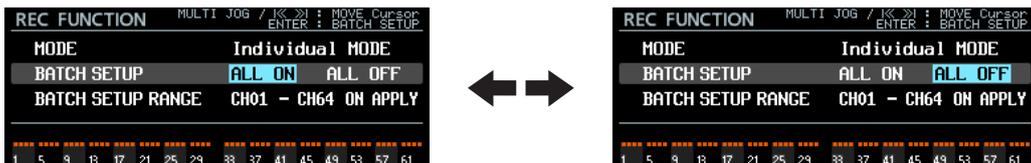


カーソルが、“ALL ON”、“ALL OFF”、“APPLY” の位置にあるときの表示と操作

- 常に塗りつぶしカーソルが表示されます。



- MULTI JOGダイヤルを回す、または◀▶ボタンを押すと、カーソルが移動します。

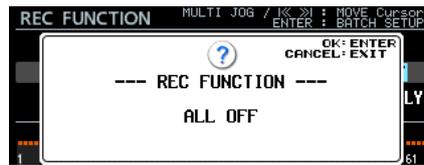


- MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルで選択された一括設定動作の実施確認のポップアップメッセージを表示します。

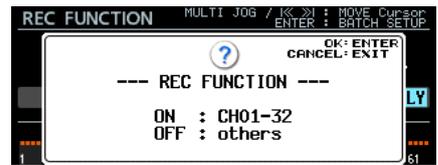
ALL ON時



ALL OFF時



APPLY時



MULTI JOGボタンを押すと、一括設定を実施します。
EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

カーソルが、各チャンネルを個別設定する画面下部にあるときの表示と操作

- 選択されたチャンネル番号が上部にブルーアップ表示されたカーソル枠が表示されます。この際、選択されたチャンネルの設定により、チャンネル番号の背景色が変わります。

OFF : 灰色



ON : 青 (INPUT MONITOR時)



ON : 赤 (REC FUNCTION時)



- MULTI JOGダイヤルを回す、または◀◀ / ▶▶ボタンを押すと、枠カーソルが移動します。SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、高速移動します。また、画面下部の左右端でSHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、左右反対端のチャンネルに移動します（チャンネル1で左回しするとチャンネル64、チャンネル64で右回しするとチャンネル1に移動）。



- MULTI JOGダイヤルを押すことで、“INPUT MONITOR”画面もしくは“REC FUNCTION”画面の選択されたチャンネルのオン/オフが切り換わります。



先頭テイクに移動するボタン操作を追加

- ボタンを押しながら◀◀ [MARK ◀◀] ボタンを押すと、先頭テイクに移動できるようにしました。

コール機能を追加 (リモコン操作のみ)

最後に再生待機状態から再生を開始したポイント (コールポイント) にロケートし、再生待機状態となります。

ファームウェアV2.20の新機能

ファームウェアV2.20より、次の新機能を追加しました。

- 同一テイク内でのシアタープレイ機能に対応しました。

同一テイク内でのシアタープレイ機能

同一テイク内でのシアタープレイ機能に対応しました。

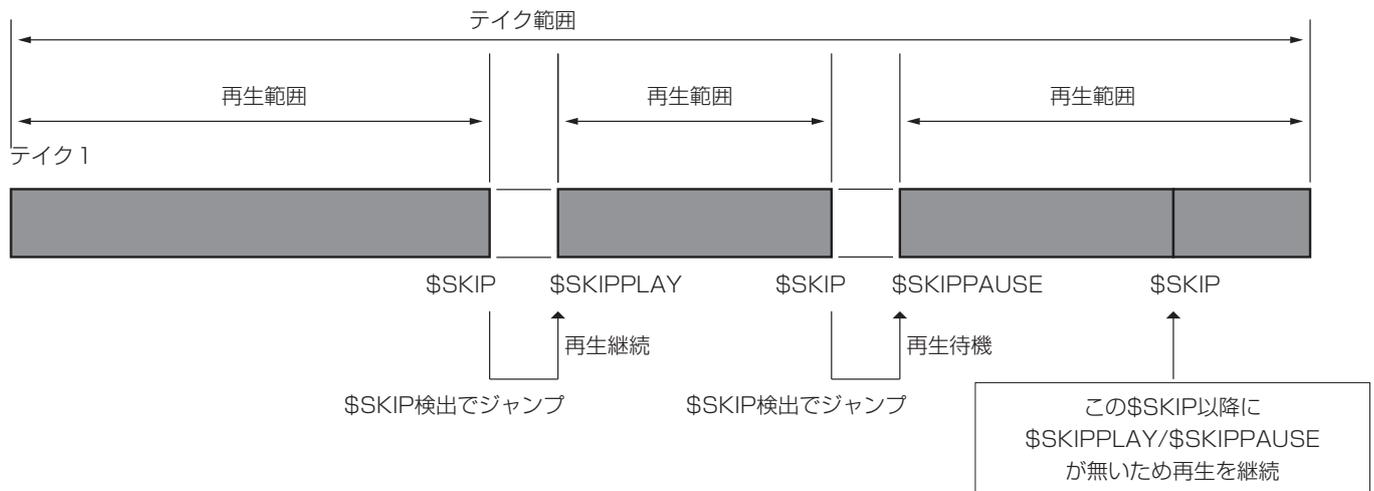
同一テイク内の再生したい範囲の開始位置と終了位置をマークポイントとして登録し、同一テイク内の複数の登録範囲を順次再生することができます。

同一テイク内でのシアタープレイの再生範囲

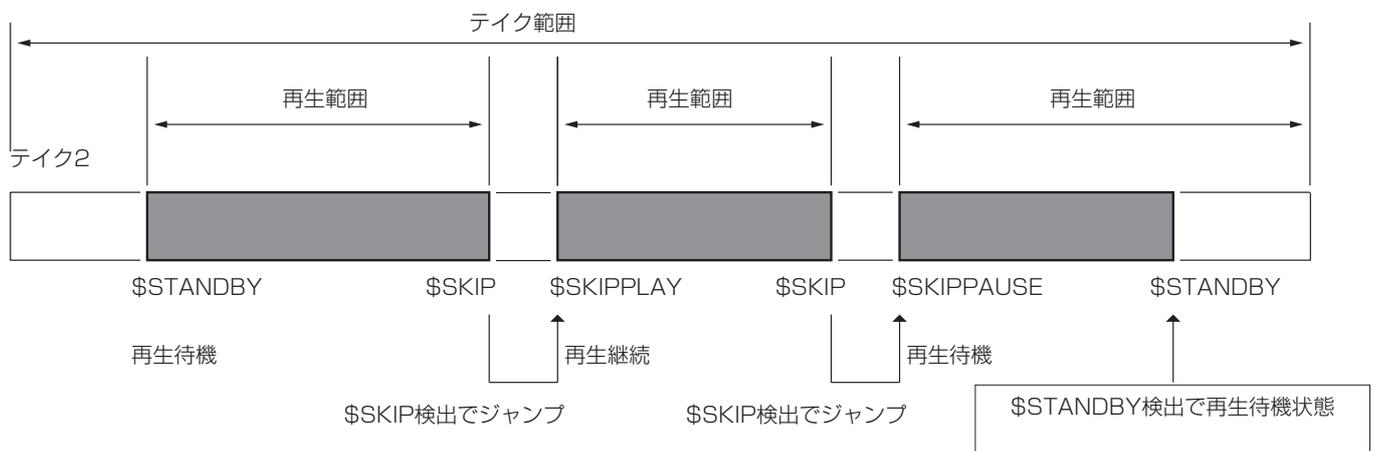
以下の名前前のマークポイントが同一テイク内でのシアタープレイの開始位置/終了位置となります。

	マーク名	動作
開始位置マーク名	\$SKIPPLAY	\$SKIPマークから移動してきた際、このマークポイントからテイクの再生を継続します。
	\$SKIPPAUSE	\$SKIPマークから移動してきた際、このマークポイントでテイクが再生待機状態になります。
終了位置マーク名	\$SKIP	このマークポイントでテイクの再生を終了し、同一テイク内の\$SKIPPLAYまたは\$SKIPPAUSEマークに移動します。 同一テイク内に\$SKIPPLAYまたは\$SKIPPAUSEマークが無い場合は、再生を継続します。 メモ あるポイント以降を再生したくない場合は、\$STANDBYマークを設定します。
	\$SKIPなし	テイクの末尾まで再生し、動作モードにしたがって再生を継続します。

動作例1)



動作例2)



同一テイク内でのシアタープレイ用のマークポイントの表示

同一テイク内でのシアタープレイ用のマークポイントは、ホーム画面で以下のように表示されます。

マーク名	表示アイコン
\$SKIPPLAY	 (白い >)
\$SKIPPAUSE	 (緑色の >)
\$SKIP	 (緑色の <)

同一テイク内でのシアタープレイ用のマークポイント名の入力

これらのマークポイント名は、マーク名編集画面において既存のシアタープレイ用のマークポイント名と同様の手順で簡単に入力できます。



ファームウェアV2.10の新機能

ファームウェアV2.10より、次の新機能を追加しました。

- 2台の同時録音／再生動作ができるカスケード機能に対応しました。
- “INFORMATION” 画面にカスケード状態の表示を追加しました。

カスケード機能に対応

複数の本機を同一ネットワークに接続することで、2台の録音／再生動作をサンプル精度で同期するカスケード機能に対応しました。2台までのカスケード動作に対応し、

- サンプリング周波数 44.1kHz / 48kHz時に最大64チャンネル×2台=128チャンネル
- サンプリング周波数 88.2kHz / 96kHz時に最大32チャンネル×2台=64チャンネル

の同時録音／再生動作が可能となります。

カスケード機能の設定

メニュー画面に追加された“CASCADE” ページでカスケード機能の設定と状態表示を行います。



“CASCADE STATUS”

カスケード状態を表示します。

カスケード状態	ERROR/ALERT区分	内容
Cascade OFF	---	カスケード動作がオフの状態
Offline (No Network)	ERROR	ネットワーク接続していないため、カスケード動作できない状態
Offline (Duplicate Slave)	ERROR	同じIDのカスケードスレーブに設定された機器が複数存在するため、正常にカスケード動作できない状態
Offline (Duplicate Master)	ERROR	カスケードマスターに設定された機器が複数存在するため、カスケード動作できない状態
Comms lost with Slave	ALERT	一度カスケード同期したカスケードスレーブ機器がネットワーク上で認識できなくなった状態
Offline (No Slaves)	ALERT	カスケードスレーブに設定された機器がネットワーク上に見つからないため、カスケード動作できない状態
Offline (No Master)	ERROR	カスケードマスターに設定された機器がネットワーク上に見つからないため、カスケード動作できない状態
Syncing...	ERROR	カスケード同期処理中
Waiting...	ERROR	カスケード待ち状態
OK (N active)	---	N台で正常にカスケード同期動作している状態

メモ

- カスケード状態は、“INFORMATION”画面にも表示されます。

INFORMATION	
CLOCK	48kHz WORD* (Regained)
FILE	BWF 24bit 64ch MONO 2015/04/06 18:22
FOLDER	DA Files
CASCADE STATUS	Offline(Duplicate Master)

- “Cascade OFF” と “OK” 以外の状態の場合、INFOインジケータが赤く点灯し、“ERROR INFORMATION”画面または“ALERT INFORMATION”画面に以下のようにエラー／アラートが表示されます。



[“ERROR INFORMATION” 画面]



[“ALERT INFORMATION” 画面]

- 上記カスケードのエラーが発生しているときは、録音／再生が開始できません。
- 上記カスケードのアラートが発生しているときは、録音／再生が開始できます。ただし、“Offline (No Slaves)”の場合、カスケードマスター機1台での動作となります。

“CASCADE UNITS”

この機体で認識しているカスケード機器のIDを表示します。

各機器がカスケード同期動作できているかどうかは、各機器の“CASCADE STATUS”でご確認ください。

例1) MASTER、SLAVE-1を認識している場合

M S 1

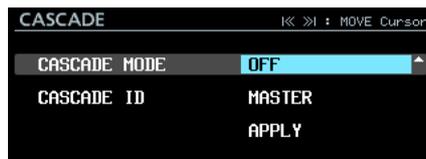
例2) 1台も認識していない場合

NONE

“CASCADE SETUP”

カスケード機能の設定をします。

“CASCADE SETUP”を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、カスケード機能の設定変更画面に切り換わります。



最後の行の“APPLY”でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確定しメニュー画面に戻ります。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

“CASCADE MODE”

カスケードの動作モードを選択します。

選択肢

“OFF” (初期値) : カスケード機能を無効にします。

“ON” : カスケード機能を有効にします。

“CASCADE ID”

カスケード機器のIDを選択します。

カスケードIDは、必ず他の機器と違う設定にする必要があります。

選択肢	内容
“MASTER” (初期値)	カスケードマスター機に設定します。
“SLAVE-01”	カスケードスレーブ1号機に設定します。

カスケード時のホーム画面表示

“**CASCADE MODE**” をオンに設定すると、ホーム画面右上に以下のように表示されます。

この表示は、“**CASCADE STATUS**” が “**OK**” 以外の場合には点滅します。

カスケード状態	カスケードマスター機	カスケードスレーブ1号機
オフ時	カスケード表示無し	
正常時	青背景で点灯	黄背景で点灯
接続処理中	青背景で点滅	黄背景で点滅
エラー時	赤背景で点滅	赤背景で点滅

カスケード時の録音ファイル名の形式

“**CASCADE MODE**” が “**ON**” に設定されている場合、録音ファイル名は以下の形式になります。

- Tnnn_<name>_TTT_<ID>_tt.wav
- nnn : テイク番号
 - <name> : “**REC FILE FORMAT**” 画面 “**FILE NAME**” の設定に従った名前
 - TTT : 番号
 - <ID> : カスケードIDを示す文字 (M/S 1)
 - tt : チャンネル番号

例1) カスケードマスター機での録音ファイル名	例2) カスケードスレーブ1号機での録音ファイル名
T001_TASCAM_001_M_01.wav	T001_TASCAM_001_S1_01.wav
T001_TASCAM_001_M_02.wav	T001_TASCAM_001_S1_02.wav
⋮	⋮
T001_TASCAM_001_M_63.wav	T001_TASCAM_001_S1_63.wav
T001_TASCAM_001_M_64.wav	T001_TASCAM_001_S1_64.wav

注意

録音開始時にカスケードマスター機から指示された名前のテイクが既にカスケードスレーブ機に存在した場合、カスケードIDを示す文字に「A」を付加したテイク名（例：T001_TASCAM_001_S1A）で録音します。

カスケード再生する際はテイク名でカスケード再生対象テイクを選択するため、このテイクをカスケード再生する場合は、意図したテイクで再生されなくなりますのでご注意ください。

“FILE NAME” 設定：USER WORD “TASCAM” での例)

	カスケードマスター機	カスケードスレーブ機
録音前	テイク無し	T001_TASCAM_001_S1
録音開始	T001_TASCAM_001_M	既に本来のテイク名「T001_TASCAM_001_S1」があるため「T001_TASCAM_001_S1A」で録音
録音後	T001_TASCAM_001_M	T001_TASCAM_001_S1 T001_TASCAM_001_S1A
再生	T001_TASCAM_001_MとT001_TASCAM_001_S1がカスケード再生される	

カスケード時のカレントフォルダー

- カスケードマスター機のカレントフォルダーと同じ名前のフォルダーが、カスケードスレーブ機のカレントフォルダーとなります。カスケードスレーブ機にカスケードマスター機のカレントフォルダーと同じ名前のフォルダーが無い場合は、自動的に作られます。
- カスケードマスター機でフォルダーを作ると、自動的にカスケードスレーブ機でも同じ名前のフォルダーが作られます。
- カスケードマスター機でフォルダーをロードすると、自動的にカスケードスレーブ機でも同じ名前のフォルダーがロードされます。

制限事項

- カスケード録音／再生動作をしたい場合は、カスケードマスター機でトランスポート操作*をしてください。カスケードスレーブ機でトランスポート操作をすると、それぞれの機器が独立して動作します。
 - * 本体フロントパネルキー、RS-422、NETWORK（TASCAM DA-6400 Controlを含む）、PARALLEL、USBキーボードでのトランスポート操作
- 以下の設定は、カスケードマスター機を設定するとカスケードスレーブ機も一括で設定されます。カスケード接続中はカスケードスレーブ機では以下の設定を変更できません。
 - メニュー画面“REC FILE FORMAT” ページ“REC FUNCTION” 設定の“ALL ON”、“ALL OFF” 設定（“Individual” 時の各チャンネルの設定は各機器個別に設定可）
 - メニュー画面“REC FILE FORMAT” ページ“BIT LENGTH” 設定
 - メニュー画面“REC FILE FORMAT” ページ“REC Fs” 設定
 - メニュー画面“REC OPTIONS” ページ“AUTO FILE INCREMENT” 設定、“PAUSE MODE” 設定
 - メニュー画面“PLAY SETUP” ページ“PLAY MODE” 設定、“REPEAT MODE” 設定、“THEATER PLAY” 設定、“AUTO READY” 設定
- カスケードスレーブ機で録音されるファイル名は、Slave機の“FILE NAME” 設定に関わらず、カスケードマスター機の設定と同じファイル名になります。
- カスケードスレーブ機で録音されるファイルに記録されるタイムコードは、カスケードスレーブ機のタイムコード設定に関わらず、カスケードマスター機と同じタイムコードになります。
- カスケード接続中のカスケードスレーブ機では、カスケードスレーブ機のメニュー画面“PLAY SETUP” ページの設定に関わらず、常にカスケードマスター機と一致するテイクを再生します。
- カスケード接続中のカスケードスレーブ機では、フォルダーの削除／リネーム操作はできません。カスケードスレーブ機でフォルダーを削除／リネームするには、カスケードを無効にしてください。
- 本機には、カスケード機器のモニター出力をミックスする機能はありません。モニター出力は個々の機器で選択したチャンネルが個々の機器のPHONES端子から出力されます。
- プレイリストモードの場合、“CASCADE MODE” を“ON” に設定することはできません。
- “CASCADE MODE” が“ON” に設定されている際にプレイリストをロードしてプレイリストモードに切り換えた場合、“CASCADE MODE” は自動的に“OFF” に切り換わります。
- “CASCADE MODE” が“ON” に設定されている場合、“CHASE MODE” を“ON” に設定することはできません。複数台でのタイムコード同期再生については、28ページ「複数台でのタイムコード同期再生」を参照ください。

カスケード動作させるための手順

カスケード接続や複数のDA-6400を接続するには、必ずオーディオクロックの同期が要となります。オーディオクロックの同期については、下記4項オーディオクロックの同期を参照ください。

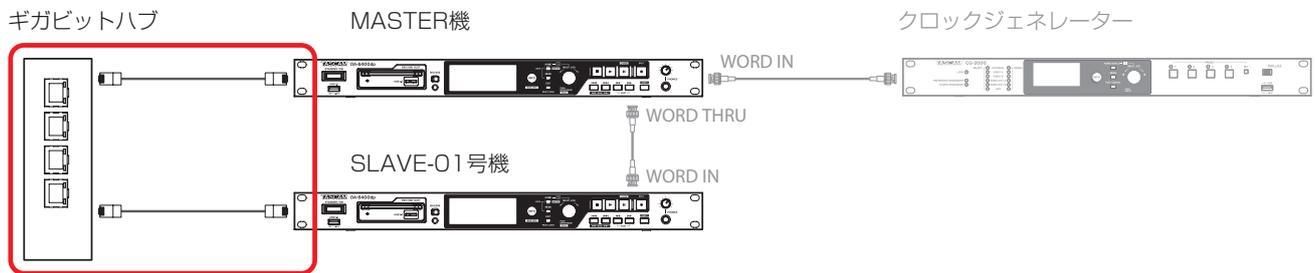
1. 全ての本機の“CASCADE MODE”設定をオンにします。
2. 1台の“CASCADE ID”を“MASTER”に設定し、もう一台の機器を“SLAVE-01”に設定します。
3. それぞれの機器を同一のネットワークに接続します。

DHCPサーバーが存在するネットワークに接続する場合や、DA-6400とハブだけが接続されたDHCPサーバーが存在しないネットワークの場合は、メニュー画面“NETWORK”ページの“IP SETUP”の“MODE”を“AUTO”に設定します。DA-6400とハブだけが接続されたDHCPサーバーが存在しないネットワークに、コンピューターやDA-6400以外の機器を接続する場合は、メニュー画面“NETWORK”ページの“IP SETUP”で“MODE”を“STATIC”に設定し、全ての機器の“IP ADDR”設定を同一セグメントの異なる値に設定します。

ネットワークにDHCPサーバーが存在しない場合の設定例：

CASCADE ID	MODE	IP ADDR	SUBNET
MASTER	STATIC	192.168.100.100	255.255.255.0
SLAVE-01		192.168.100.101	

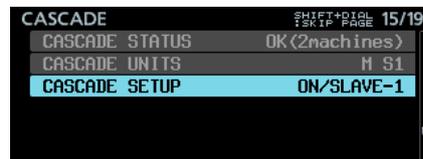
接続例：



[カスケード同期用の接続]

1～3の設定/接続が完了すると、自動的にカスケード接続の処理が始まります。

カスケード接続が全て確立すると、全ての機器のメニュー画面“CASCADE”ページの“CASCADE STATUS”欄に“OK”とカスケード接続している機器の総数が表示されます。



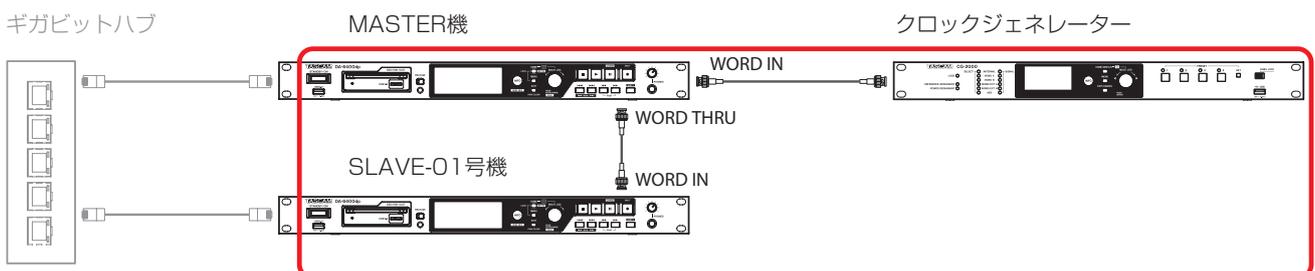
また、ホーム画面のカスケード設定表示が点灯表示になります。



さらに、他にエラー等が無い状態であればINFOインジケーターが青で点灯します。

4. オーディオクロックの同期は、カスケード接続とは別系統で行う必要があります。そのため、全ての機器のオーディオクロックが同期できるように機器を接続します。

接続例：外部WORDクロックをクロックマスターにする場合



[オーディオクロック同期用の接続]

5. タイムコードを使った録音動作をしたい場合、カスケードマスター機のタイムコード入力端子にタイムコード信号を入力することで、カスケードスレーブ機にもタイムコードが分配されます。

メモ

- カスケード同期録音／再生中にカスケード機器をネットワークに追加した場合、追加したカスケード機器のIDは“**CASCADE UNITS**”に表示されますが、カスケード同期録音／再生が停止するまで、追加したカスケード機器はカスケード同期動作できません。
- カスケード録音／再生中にネットワーク接続が切れたことによりカスケード接続が切れた場合、ネットワーク接続が復帰しても停止状態になるまでカスケード接続は確立しません。そのため、マスター機で録音／再生を停止しても、カスケード接続の切れたスレーブ機は停止しないため、それぞれの機器個別に停止させてください。停止状態になると、自動的にカスケード接続処理が始まります。

カスケード録音

カスケード動作設定／接続が完了後、カスケードマスター機で録音を開始／停止／一時停止すると、カスケードスレーブ機が同期して録音を開始／停止／一時停止します。

カスケード再生

カスケード動作設定／接続が完了後、カスケードマスター機で再生を開始／停止／一時停止すると、カスケードスレーブ機が同期して再生を開始／停止／一時停止します。

カスケードマスター機が早送り／早戻し動作中はスレーブ機は同期せず、マスター機が停止した後にスレーブ機が停止位置に同期します。

再生中にテイクスキップした場合は、マスター機のスキップ後の再生にスレーブ機が同期して再生します。

停止中にテイクスキップした場合は、スレーブ機は即座にマスター機の再生対象テイクでの停止状態になります。

カスケード再生対象テイク

カスケードマスター機は、サンプリング周波数が“**REC Fs**”設定と一致したカレントフォルダーの全てのテイクが再生できます。

カスケードスレーブ機で再生できるテイクは、カスケードマスター機のカレントフォルダーと同じ名前のフォルダーにある以下のいずれかのテイクとなります。

- カスケードID設定がファイル名のカスケードIDを示す文字と一致したテイク
- カスケードマスター機で選択したテイクと同じ名前のテイク

(a)(b) 両方のテイクが存在する場合は、(a) のテイクを再生します。

(a) のテイクが無い場合は、(b) のテイクを再生します。

カスケード再生を行う場合は、基本的にカスケード録音した機器で再生してください。

テイク名に付加されたカスケードID部がカスケードID設定と違うテイクをカスケード再生したい場合は、以下のいずれかを実施してください。

- カスケードIDを、再生したいテイクに合わせて変更する。
- カスケードID設定に合わせて、テイク名編集でカスケードID部を編集する。
- テイク名編集でカスケードマスター機と同じテイク名に変更する。

例)

CASCADE ID : SLAVE-1

テイク名 : T001_TASCAM_001_M

この状態では、「T001_TASCAM_001_M」はカスケード再生できません。

- テイク名に合わせて“**CASCADE ID**”の設定を“**MASTER**”に変更
 - “**CASCADE ID**”の設定に合わせてテイク名を「T001_TASCAM_001_S1」に変更
- のいずれかを実施することでカスケード再生できるようになります。

INFORMATION画面にカスケード状態の表示を追加

“**INFORMATION**”画面にカスケード状態の表示を追加しました。

INFORMATION	
CLOCK	48kHz WORD* (Regained)
FILE	BWF 24bit 64ch MONO 2015/04/06 18:22
FOLDER	DA Files
CASCADE STATUS	Offline(Duplicate Master)

ファームウェアV2.00の新機能

ファームウェアV2.00より、次の新機能を追加しました。

- 任意の順番でテイクを登録し、登録毎に再生範囲などの設定ができるプレイリストに対応しました。
- 各テイクの再生したい範囲の開始位置と終了位置をマークポイントとして登録し、複数のテイクの登録範囲を順次再生するシニアプレイ機能を追加しました。
- 再生中のテイクの再生が終了したとき、次のテイクの先頭で再生待機状態になるAUTO READY機能を追加しました。
- カレントフォルダーの全テイクでのタイムコード同期再生に対応しました。
- 32bit PCM形式／32bit float形式のWAVファイルの再生に対応しました。
- テイクリストをテイクタイムコード順もしくはテイク名順に並び替えるソート機能を追加しました。
- ホーム画面でSHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押すことでカレントテイクやプレイリストを操作するメニューを表示する機能を追加しました。
- 選択したメニューページだけを表示させるマイメニュー機能を追加しました。
- mDNSに対応し、Mac OS やmDNS対応のTelnet、VNC、FTPのアプリからDA-6400のネットワーク接続が簡単にできるようになりました。
- VNCサーバー機能で2種類の圧縮転送フォーマットに対応しました。
- メニュー画面“REC FILE FORMAT”ページの“FILE NAME”設定に“None”を追加しました。
- メニュー画面の“SNTP”ページに現在日時の表示を追加しました。
- “INFORMATION”画面にカレントフォルダー名の表示を追加しました。
- 録音中にバッファオーバーフローが発生した場合、自動的にマークポイントを設定するようにしました。
- マスタークロックに同期していないときの表示方法を変更しました。
- BWFファイルのBEXTチャンクデータに、Track Namesなどのメタデータを追加しました。
- BWFファイルに、Track NamesなどのメタデータのiXMLチャンクデータを追加しました。

プレイリスト機能に対応

任意の順番でテイクをリストに登録することができ、「再生順の変更」や「音声ファイルデータを変更しない非破壊での再生範囲などの編集」が可能なプレイリスト機能に対応しました。

プレイリストファイルは、JPPAポン出しプレイリストファイルの取り込み／書き出しに対応しています。

動作モード

本機には、「テイクリストモード」と「プレイリストモード」の2つの動作モードがあります。

“BROWSE”画面 カレントフォルダーのファイル一覧の順番でテイクを再生する動作を「テイクリストモード」と呼びます（本機のバージョンが2.00より前での動作）。

これに対して、任意の順番でテイクをリスト登録することができる「プレイリストモード」があります。プレイリストモードでは、「再生順の変更」や「音声ファイルデータを変更しない非破壊での再生範囲などの編集」が可能です。

テイクリストモードの場合、ホーム画面のテイク名左側に“TAKE”と表示されます。



プレイリストモードの場合、ホーム画面のテイク名左側に“PL”と表示されます。



プレイリストモード時の制限事項

プレイリストモード時、以下の制限事項があります。

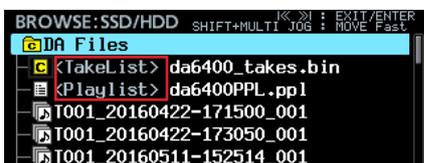
- テイク名を変更することはできません。
 - テイクのスタートタイムコードを変更することはできません。
 - “CHASE MODE”を“ON”に設定することはできません。
 - “CHASE MODE”が“ON”に設定されている際にプレイリストをロードしてプレイリストモードに切り換えた場合、“CHASE MODE”は自動的に“OFF”に切り換わります。
 - “CASCADE MODE”を“ON”に設定することはできません。*
 - “CASCADE MODE”が“ON”に設定されている際にプレイリストをロードしてプレイリストモードに切り換えた場合、“CASCADE MODE”は自動的に“OFF”に切り換わります。*
- * ファームウェアV2.10より対応（→ 43ページ「機能説明追記／変更」）

動作モードの切り換え（プレイリストのロード）

テイクリストモードとプレイリストモードの切り換えは、それぞれ“BROWSE”画面でテイクリストファイル（da6400_takes.bin）、プレイリストファイル（JPPA PPLファイル、拡張子.ppl）を選択してロードすることで実施します。

以下では、テイクリストモードからプレイリストモードへの切り換え手順を説明します。

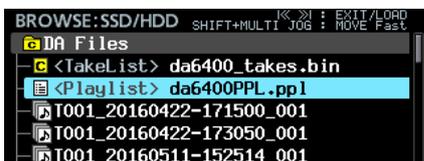
- メニュー画面から“BROWSE”画面のカレントフォルダーに移動します。
テイクリストファイルとプレイリストファイルのファイル名前には、下記赤枠（）のようにそれぞれ“<TakeList>”、“<Playlist>”という灰色の文字が付加された状態でフォルダリストの先頭に表示されます。
現在ロードされているファイルは、下記橙色の枠（）のように黄色い“C”アイコンで表示されます。



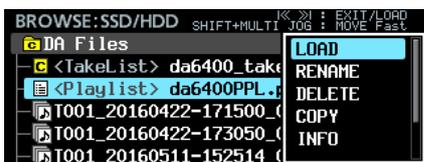
メモ

カレントフォルダーにプレイリストファイルが1つも存在しない場合、“da6400PPL.ppl”という名前のテイクが未登録のプレイリストファイルが自動的に生成されます。

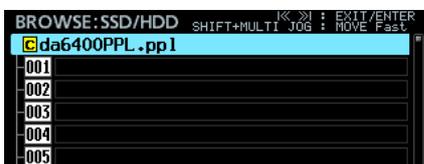
- MULTI JOGダイヤルを回して、プレイリストファイルを選択します。



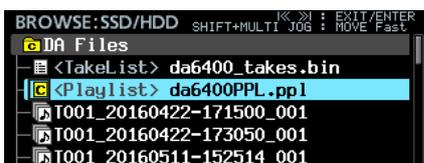
- MULTI JOGダイヤルを押して、メニューを表示します。



- “LOAD”を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、ロード確認のポップアップメッセージが表示されます。
- MULTI JOGダイヤルを押すとポップアップメッセージが表示され、プレイリストがロードされてプレイリストモードに切り換わります。
- ロードが完了すると、プレイリストエントリーリスト画面に切り換わります。



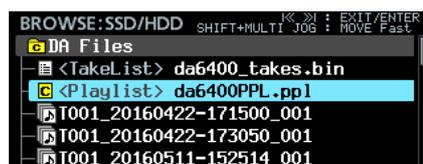
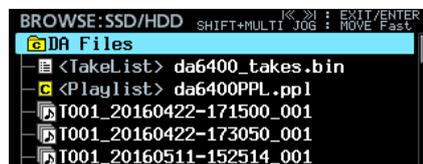
また、カレントフォルダーの一覧表示では、ロードしたプレイリストがカレントプレイリストとして下記橙色の枠（）のように黄色い“C”アイコンで表示されます。



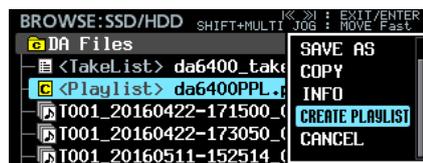
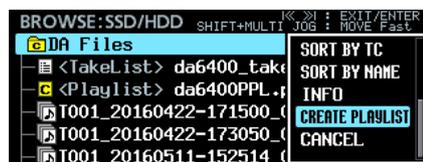
新規プレイリストの作成

自動的に生成される「da6400PPL.ppl」とは別に、JPPA PPLフォーマットの新規プレイリストをカレントフォルダーに作成することができます。

- メニュー画面から“BROWSE”画面のカレントフォルダーに移動し、MULTI JOGダイヤルを回して一番上の行のカレントフォルダーもしくはプレイリストファイルを選択します。



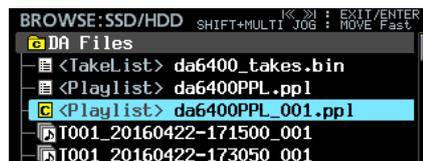
- MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示し、“CREATE PLAYLIST”を選択します。



- MULTI JOGダイヤルを押すと、作成するプレイリスト名の入力画面に切り換わります。



- 作成するプレイリスト名を入力します。名前の入力方法については、取扱説明書「第4章 録音」の「文字列の編集方法」を参照ください。
- プレイリスト名の編集を終了後、“ENTER”を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認のメッセージがポップアップ表示されます。
- MULTI JOGダイヤルを押すとポップアップメッセージが表示されてプレイリスト作成されます。



メモ

- 作成されたプレイリストがカレントプレイリストになります。
- テイクリストモードでプレイリストを作成した場合、プレイリストモードに切り換わります。

プレイリストファイルの名前編集・削除・コピー

プレイリストファイルの名前編集・削除・コピーの方法については、取扱説明書「第5章 フォルダの操作 (BROWSE画面)」の「フォルダ名/テイク名/ファイル名を編集する」、「フォルダ/テイク/ファイルを削除する」、「フォルダ/テイク/ファイルのコピー」を参照ください。

メモ

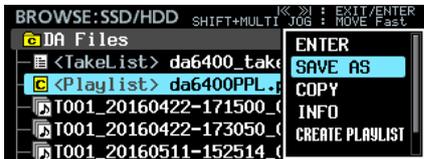
ロード中のカレントプレイリストファイルについては、コピーは可能ですが、名前の編集と削除はできません。

プレイリストファイルに名前を付けて保存

各メニューで“**SAVE AS**”を選択することでカレントプレイリストファイルに名前を付けて保存することもできます。

1. 以下のいずれかの方法でメニューを表示します。

- 1.1 メニュー画面から“**BROWSE**”画面のカレントフォルダに移動し、**MULTI JOG**ダイヤルを回してロード済みプレイリストファイル（カレントプレイリストファイル）で**MULTI JOG**ダイヤルを押してメニューを表示。



- 1.2 プレイリストエントリーリスト画面で、一番上の行のプレイリストを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してメニューを表示。



- 1.3 ホーム画面で**SHIFT**ボタンを押しながら**MENU**ボタンを押してメニューを表示。



2. “**SAVE AS**”を選択して**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、保存するプレイリスト名の入力画面に切り換わります。



3. 保存するプレイリスト名を入力します。

名前の入力方法については、取扱説明書「第4章 録音」の「文字列の編集方法」を参照ください。

4. プレイリスト名の編集を終了後、“**ENTER**”を選択して**MULTI JOG**ダイヤルを押すと保存を開始します。保存中は、進行状況をポップアップウィンドウ内に表示します。



保存が完了すると、ポップアップウィンドウが消えます。

プレイリストの編集

プレイリストの中の再生単位をエントリーと呼びます。

プレイリスト内には、最大999のエントリーが登録できます。

エントリーとして登録できるのは、プレイリストを作成したフォルダに含まれるテイクのみです。

他のフォルダにあるテイクは、プレイリスト登録時にプレイリストを作成したフォルダにコピーされます。

プレイリストの編集は、“**BROWSE**”画面のプレイリストエントリーリスト画面で行います。

メモ

プレイリストの編集内容は、以下のタイミングで自動的にプレイリストファイルに保存されます。

- ・プレイリストエントリーリスト画面から他の画面に切り換える。
- ・プレイリストエントリーの編集 (ADJUST) 画面から他の画面に切り換える。
- ・**STANDBY/ON**スイッチを押して表示されるポップアップメッセージで、**MULTI JOG**ダイヤルを長押しして本機の電源を切る。

注意

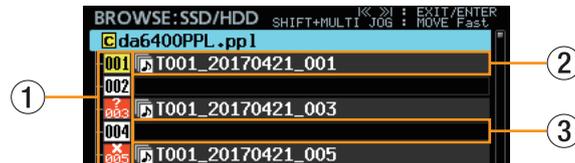
プレイリスト編集後、上記操作をしないでSSDを抜いたり、電源コードを抜いたりすると、編集内容が保存されませんのでご注意ください。

再生中のプレイリスト編集の制限

- カレントフォルダー内のテイク登録と、テイク登録の解除は実施できます。ただし、再生中のエントリーは編集することはできません。
- 他のフォルダー内のテイク登録は、実施できません。
- エントリーの挿入 (INSERT)、複製 (COPY)、移動 (MOVE)、削除 (DELETE) の編集は実施できません。

プレイリストエントリーリスト画面

この画面を表示するには、“**BROWSE**”画面でプレイリストをロードまたはENTERを実施するか、ホーム画面で**SHIFT**ボタンを押しながら**MENU**ボタンを押してメニューを表示し、“**ENTRY LIST**”を選択して**MULTI JOG**ボタンを押します。



① プレイリストエントリー番号

エントリー番号が表示されるアイコンです。
エントリーの状態により、下記のように表示されます。

アイコン	内容	INFOポップアップ表示例
	カレントエントリー（現在再生対象となっているエントリー）	
	問題の無いエントリー	
	再生できないエントリー（現在のREC Fs設定と一致しないテイクや再生できないテイクがアサインされている場合）	
	再生できないエントリー（現在のREC Fs設定と一致しないテイクや再生できないテイクがアサインされている場合）	
	登録されたファイルが存在しないエントリー（プレイリスト登録後テイクを削除した場合や別フォルダーからプレイリストファイルだけをコピーした場合など）	

② 登録済みエントリー

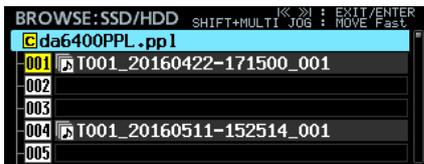
テイクが登録されているエントリーです。

③ 未登録エントリー

テイクが登録されていないエントリーです。

プレイリストエントリーへのテイクの登録 (ASSIGN)

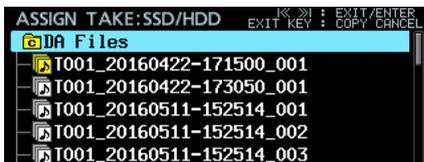
1. テイクを登録したいプレイリストをロードし、プレイリストエントリーリスト画面を表示します。



2. MULTI JOGダイヤルを回してテイクを登録したいエントリーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。



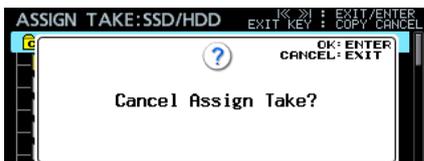
3. “ASSIGN” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“ASSIGN TAKE” 画面に切り換わります。



4. “ASSIGN TAKE” 画面で登録したいテイクを選択します。ファイル選択やディレクトリ移動の方法は“BROWSE”画面と同じです。

メモ

ASSIGN操作をやめる場合は、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して、下記ポップアップメッセージを表示します。



MULTI JOGダイヤルを押すと、プレイリストエントリーリスト画面に戻ります。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

5. MULTI JOGダイヤルを押して、メニューを表示します。

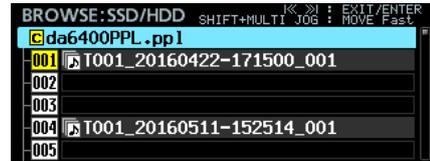


6. “ASSIGN” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、プレイリストエントリーリスト画面に戻り、選択したエントリーに選択したテイクが登録されます。

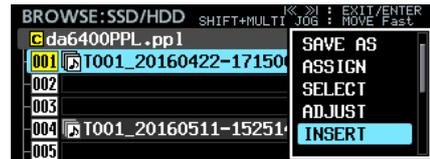
プレイリストエントリーの挿入 (INSERT)

空のエントリーを挿入します。

1. プレイリストエントリーリスト画面を表示します。



2. MULTI JOGダイヤルを回して空のエントリーを挿入したい場所を選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。



3. “INSERT” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、選択した場所に空のエントリーが挿入されます。



メモ

プレイリスト上限のエントリー 999 にテイクが登録済みの場合、下記ポップアップメッセージが表示されます。



MULTI JOGダイヤルを押すと、エントリー 999 が削除されて選択した場所に空のエントリーが挿入されます。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、空エントリーを挿入せずにポップアップメッセージを閉じます。

プレイリストエントリーの複製 (COPY)

選択したエントリーを指定した位置に複製します。

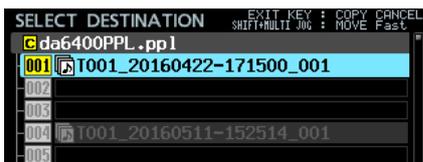
1. プレイリストエントリーリスト画面を表示します。



2. MULTI JOGダイヤルを回して複製したいエントリー（コピー元エントリー）を選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。

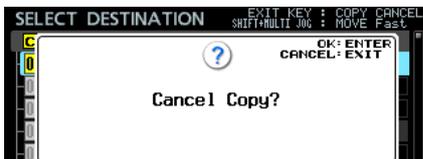


3. “COPY” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“SELECT DESTINATION”画面に切り換わります。この画面では、コピー元エントリーが黄色い番号アイコンで表示され、それ以外のエントリーはグレイアウト表示されます。



メモ

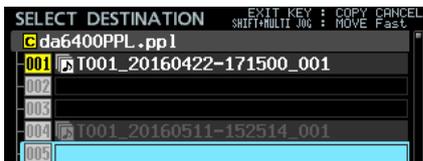
“COPY” 操作をやめる場合は、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して下記ポップアップメッセージを表示します。



MULTI JOGダイヤルを押すと、プレイリストエントリーリスト画面に戻ります。

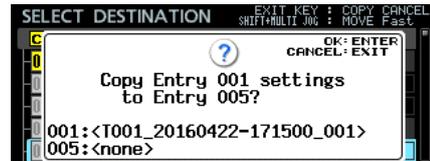
EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

4. MULTI JOGダイヤルを回して、エントリーを複製したい位置（コピー先エントリー）を選択します。

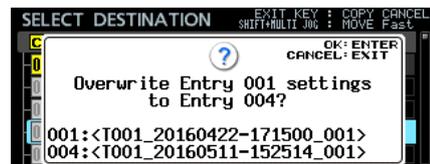


5. MULTI JOGダイヤルを押すと、下記確認ポップアップメッセージが表示されます。

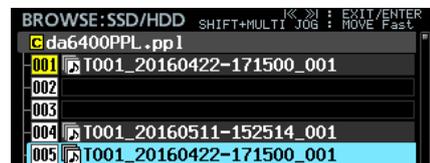
複製先が空エントリーの場合



複製先が登録済みの場合



6. MULTI JOGダイヤルを押すと、選択したエントリー（コピー元エントリー）が指定したエントリー（コピー先エントリー）に複製されます。



EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

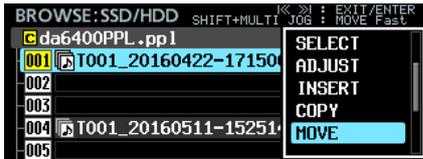
プレイリストエントリーの移動 (MOVE)

選択したエントリーを指定した位置に移動します。

1. プレイリストエントリーリスト画面を表示します。

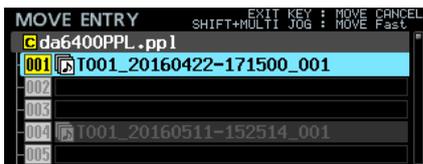


2. MULTI JOGダイヤルを回して移動したいエントリーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。



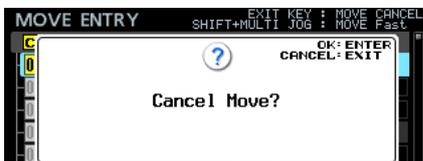
3. “MOVE” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“MOVE ENTRY” 画面に切り換わります。

この画面では、移動対象エントリーが黄色い番号アイコンで表示され、それ以外のエントリーはグレイアウト表示されます。



メモ

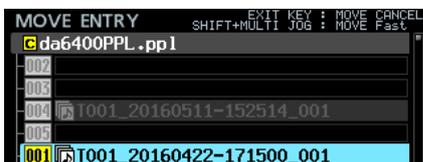
“MOVE” 操作をやめる場合は、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して下記ポップアップメッセージを表示します。



MULTI JOGダイヤルを押すと、プレイリストエントリーリスト画面に戻ります。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

4. MULTI JOGダイヤルを回して、エントリーを移動したい位置に移動します。



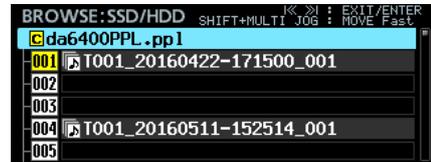
5. MULTI JOGダイヤルを押すと、選択したエントリーが表示された位置に移動します。



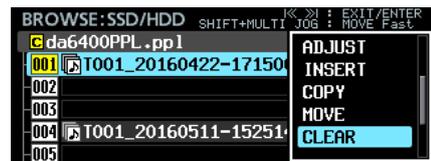
プレイリストエントリーのテイク登録の解除 (CLEAR)

選択したエントリーの登録テイクを解除して、空エントリーにします。

1. プレイリストエントリーリスト画面を表示します。



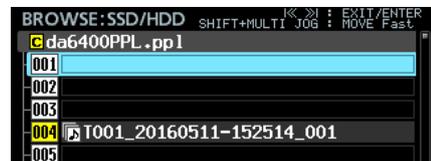
2. MULTI JOGダイヤルを回してテイク登録を解除したいエントリーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。



3. “CLEAR” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、下記確認ポップアップメッセージが表示されます。



MULTI JOGダイヤルを長押しすると、選択したエントリーがクリアされ、空エントリーになります。



EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

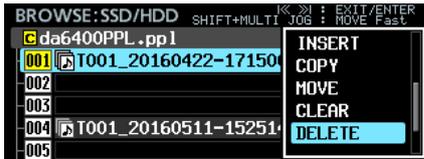
プレイリストエントリーの削除 (DELETE)

選択したエントリーを削除して、以降のエントリーを前に詰めます。

1. プレイリストエントリーリスト画面を表示します。



2. MULTI JOGダイヤルを回して削除したいエントリーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示します。



3. “DELETE” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. MULTI JOGダイヤルを長押しすると、選択したエントリーが削除され、以降のエントリーが前に移動します。



EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップメッセージを閉じます。

プレイリストエントリーの編集 (ADJUST)

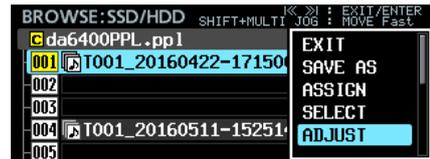
プレイリストエントリーのエントリーの再生開始/終了位置の編集の方法を説明します。

メモ

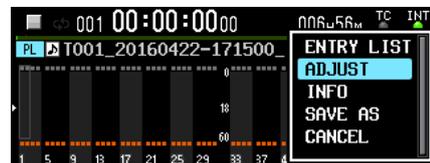
テイクを登録した際、初期値としてテイクの先頭/末尾が開始/終了位置に設定されます。

1. 以下のいずれかの方法でメニューを表示します。

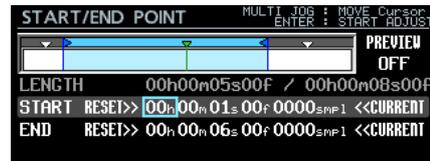
- 1.1 プレイリストエントリーリスト画面を表示し、MULTI JOGダイヤルを回して編集したいエントリーを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示。



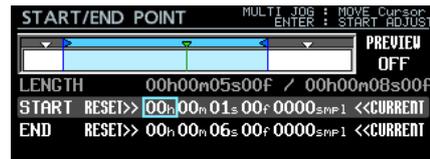
- 1.2 ホーム画面で編集したいエントリーを選択し、SHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押してメニューを表示。



2. “ADJUST” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“START/END POINT”画面に切り換わります。



3. “START/END POINT” 画面上部エリアの青いバーには含まれた水色の部分が再生範囲を示します。



左側にある青い▶マークのバーは、再生開始ポイントです。

右側にある青い◀マークのバーは、再生終了ポイントです。

編集対象になっているバーは赤色で点滅します。

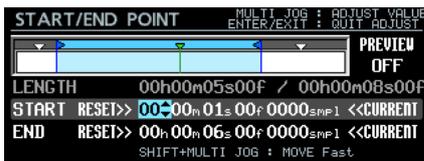
緑色の▼マークのバーは、現在の再生位置を示します。

白い▼マークは、エントリーに登録されているマークポイントを示します。

4. “START/END POINT” 画面の操作方法は、他の画面と若干異なります。

操作子の割り当ては画面右上に表示されます。

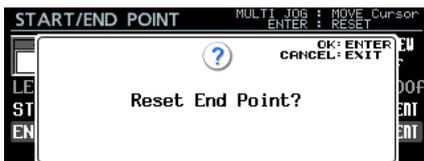
- ① 枠カーソルが表示されている状態でMULTI JOGダイヤルを回すとカーソルが移動します。
- ② 枠カーソルが表示されている状態でMULTI JOGダイヤルを押すと、塗りつぶしカーソルに切り換わります。
- ③ 塗りつぶしカーソルが表示されている状態でMULTI JOGダイヤルを押すと、枠カーソルに切り換わります。
- ④ 塗りつぶしカーソルが表示されている状態でMULTI JOGダイヤルを回すと、カーソル位置の設定が変更されます。
SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、大まかな設定動作をします。



ただし“RESET>>”と“<<CURRENT”では常に塗りつぶしカーソルが表示され、MULTI JOGダイヤルを回すとカーソルが移動し、MULTI JOGダイヤルを押すと“RESET>>”と“<<CURRENT”の動作をします。

“RESET>>”でMULTI JOGダイヤルを押すと、“START”行ではテイク先頭に、“END”行ではテイク末尾にリセットします。

いずれもリセット実行前に確認のポップアップメッセージが表示されますので、MULTI JOGダイヤルを押すとリセットします。



“<<CURRENT”でMULTI JOGダイヤルを押すと、現在の再生位置をカーソル行にキャプチャーします。

メモ

USBキーボードでも編集操作が可能です。

- ENTERキーで枠カーソルと塗りつぶしカーソルが切り換わります。
- 上下カーソルキーで設定を変更します。
- 左右カーソルキーでカーソルが移動します。
- 数字上に塗りつぶしカーソルがあるときは数字を入力することができます。

⑤ “START/END POINT” 画面でトランスポート操作を行うことでリハーサル再生を実施します。

- ◀▶ / ▶▶ ボタン操作で「素材先頭 / “Start Point” / “End Point” / 素材末尾」に移動します。これ以外は、通常のトランスポート操作と同じです。
- “Start Point” 変更すると、再生位置を “Start Point” に移動します。再生中に変更した場合は、再生位置を移動後に再生します。
- “End Point” を変更すると、再生位置を “End Point” の2秒前に移動します。再生中に変更した場合は、再生位置を移動後に再生します。
- 画面右上の “PREVIEW” の設定により、リハーサル再生内容が切り換わります。

PREVIEW OFF時のリハーサル再生

- ▶ ボタンを押すと、現在位置から再生を開始します。“Start Point” / “End Point” の範囲内だけでなく、範囲外の再生、範囲外への移動ができます。

PREVIEW ON時のリハーサル再生

- ▶ ボタンを押すと、現在位置から再生を開始します。その際、“Start Point” / “End Point” の範囲内だけを再生します。範囲外には移動できません。

5. 編集が終わったらEXITボタンを押して、呼び出し元画面に戻ります。

プレイリストモード時の録音

プレイリストモード動作中でも録音が可能です。

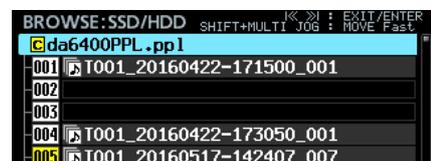
録音したテイクは、カレントプレイリストの一番大きな番号の登録済みエントリーの次のエントリーに自動的に登録されます。

例：

録音前のプレイリストの状態



録音後のプレイリストの状態



メモ

プレイリスト末尾のエントリー 999が登録済みの場合、● [SPLIT] ボタンを押すと下記ポップアップメッセージが表示されて録音できません。



シアタープレイ機能を追加

各テイクの再生したい範囲の開始位置と終了位置をマークポイントとして登録し、複数のテイクの登録範囲を順次再生するシアタープレイ機能を追加しました。

シアタープレイの設定

メニュー画面“PLAY SETUP”ページに追加された“THEATER PLAY”項目で設定を行います。



“MODE”

シアタープレイ機能の動作モードを選択します。

選択肢

- “OFF” : シアタープレイ機能を無効にします。
- “ON” : シアタープレイ機能を有効にします。

シアタープレイの再生範囲

各テイクの再生範囲は、マークポイントで設定します。

以下の名前のマークポイントがシアタープレイの開始位置／終了位置となります。

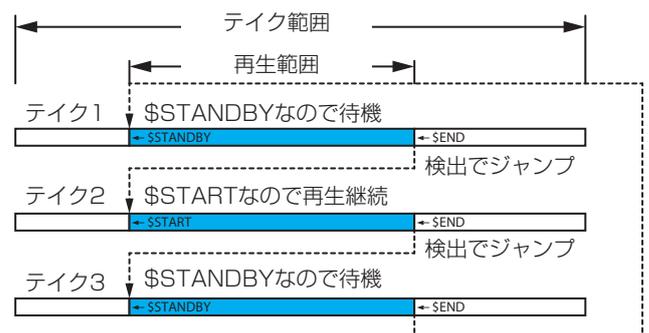
	マーク名	動作
開始位置マーク名	\$START	他のテイクの\$ENDから移動してきた際、このマークポイントからテイクの再生を継続します。
	\$STANDBY	他のテイクの\$ENDから移動してきた際、このマークポイントでテイクが再生待機状態になります。
終了位置マーク名	\$END	このマークポイントでテイクの再生を終了し、次のテイクの最初の\$STARTまたは\$STANDBYマークに移動します。 次のテイクに\$STARTまたは\$STANDBYマークが無い場合は、次のテイクの先頭に移動し、再生を継続します。
	\$ENDなし	テイクの末尾まで再生し、動作モードにしたがって再生を継続します。

* 下記設定での動作例

“PLAY MODE” = “ALL”

“REPEAT MODE” = “ON”

“THEATER PLAY” = “ON”



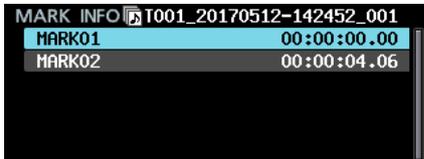
“REPEAT MODE” 項目が “ON” の場合、先頭テイクの “\$START” または “\$STANDBY” に戻る。

“REPEAT MODE” 項目が “OFF” なら停止。

シアタープレイの再生範囲用のマークポイント名の入力

シアタープレイの再生範囲用のマークポイント名は、以下の手順で簡単に入力できます。

1. ホーム画面でMULTI JOGダイヤルを回し、再生範囲を設定したいテイクを選択します。
2. SHIFTボタンを押しながらINFOボタンを押して、“MARK INFO”画面を表示します。



3. 再生範囲の開始位置または終了位置に設定したいマークポイントを選択します。
4. MULTI JOGダイヤルを押してメニューを表示し、“EDIT NAME”を選択します。



5. MULTI JOGダイヤルを押すと、選択したマークポイントのマーク名編集画面に切り替わります。



6. MULTI JOGダイヤルを回してカーソルを“PRESET▲”に移動し、MULTI JOGダイヤルを押してプルアップメニューを表示します。



7. MULTI JOGダイヤルを回して、入力したいマーク名を選択します。
8. MULTI JOGダイヤルを押すと選択したマーク名が入力され、“MARK INFO”画面に戻ります。



メモ

“PRESET▲”を使わずに、通常の文字入力の手順で「\$START」「\$STANDBY」「\$SEND」と入力することもできます。

シアタープレイの再生範囲用のマークポイントの表示

シアタープレイの再生範囲用のマークポイントは、ホーム画面で以下のように表示されます。



マーク名	マークポイント
\$START	▶ (白い▶)
\$STANDBY	▶ (青い▶)
\$SEND	◀ (青い◀)

AUTO READY機能を追加

再生中のテイクの再生が終了したとき、次のテイクの先頭で再生待機状態になるAUTO READY機能を追加しました。メニュー画面“PLAY SETUP”ページに追加された“AUTO READY”項目で設定を行います。



“MODE”

AUTO READY機能の動作モードを選択します。

選択肢

- “OFF” : AUTO READY機能を無効にします。
- “ON” : AUTO READY機能を有効にします。

カレントフォルダーの全テイクでのタイムコード同期再生に対応

カレントフォルダーの全テイクでのタイムコード同期再生に対応しました。

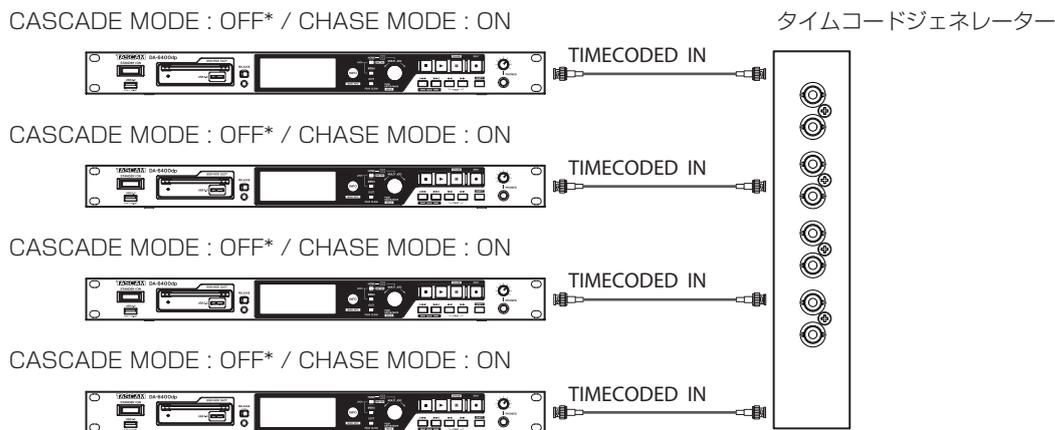
制限事項

- プレイリストモードの場合、“CHASE MODE”を“ON”に設定することはできません。
- “CHASE MODE”が“ON”に設定されている際にプレイリストをロードしてプレイリストモードに切り換えた場合、“CHASE MODE”は自動的に“OFF”に切り換わります。
- “CASCADE MODE”が“ON”に設定されている場合、“CHASE MODE”を“ON”に設定することはできません。*

複数台でのタイムコード同期再生

複数台でタイムコード同期再生をするには、全機に同じタイムコードを入力したうえで全機個別に“CHASE MODE”を“ON”に設定してください。

接続例：



* ファームウェアV2.10より対応 (→ 43ページ「機能説明追記/変更」)

32bit PCM形式 / 32bit float形式のWAVファイルの再生に対応

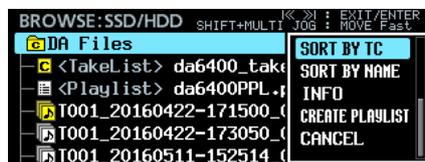
32bit PCM形式/32bit float形式のWAVファイルの再生に対応しました。
ただし、いずれの形式とも24bitPCMに変換して再生します。

メモ

1つのテイクに16bit PCM/24bit、PCM/32bit、PCM/32bit floatの形式が混在していても再生可能です。

テイクリストのソート機能を追加

テイクリストをテイクタイムコード順もしくはテイク名順に並び替える“SORT BY NAME”機能と“SORT BY TC”機能を“BROWSE”画面のカレントフォルダー選択時のメニューに追加しました。



ホーム画面メニュー機能を追加

ホーム画面でSHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押すことで、カレントテイクやプレイリストを操作するメニューを表示する機能を追加しました。



テイクリストモードで表示されるメニュー項目は、以下の通りです。

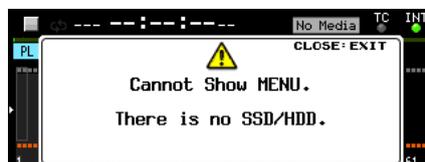
メニュー項目	内容
TAKE LIST	“BROWSE”画面のカレントフォルダーリストに切り換えます。
INFO	カレントテイクの情報をポップアップメッセージで表示します。
RENAME	カレントテイクの名前変更画面に切り換えます。
EDIT TC	カレントテイクのタイムコード編集画面に切り換えます。
DELETE	カレントテイクを削除します。
CANCEL	メニュー表示を閉じます。

プレイリストモードで表示されるメニュー項目は、以下の通りです。

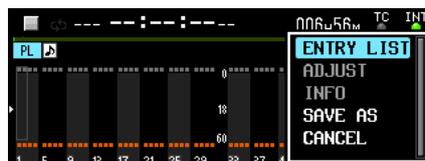
メニュー項目	内容
ENTRY LIST	カレントプレイリストのエントリーリスト画面に切り換えます。
ADJUST	カレントプレイリストエントリーの“ADJUST”画面に切り換えます。
INFO	カレントプレイリストエントリーの情報をポップアップメッセージで表示します。
SAVE AS	カレントプレイリストファイルに名前を付けて保存します。
CANCEL	メニュー表示を閉じます。

メモ

- SSD/HDDが装着されていない場合は、下記ポップアップメッセージが表示され、メニューは表示されません。



- 実行できないメニュー項目は、灰色の文字で表示されます。



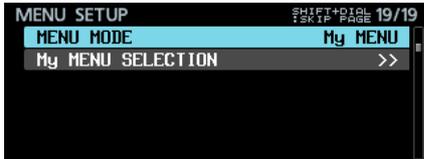
マイメニュー機能を追加

選択したメニューページだけを表示させるマイメニュー機能を追加しました。

よくアクセスするメニューページは表示、使わない機能や一度設定したら変更しないようなメニューページは非表示とすることで、メニュー画面に表示されるページ数が減り、必要なメニュー項目にアクセスしやすくなります。

マイメニュー機能の設定

メニュー画面に追加された“MENU SETUP” ページで、マイメニュー機能の設定を行います。



“MENU MODE”

メニュー動作モードの設定をします。

“MENU MODE” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、メニュー動作モードの設定変更画面に切り換わります。



“MODE”

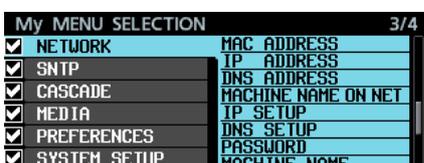
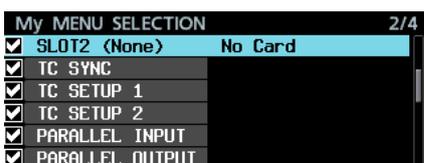
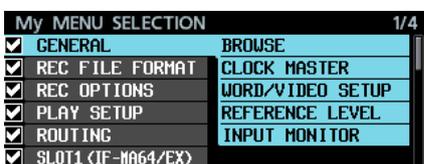
メニュー動作モードを選択します。

選択肢	内容
FULL MENU (初期値)	全てのメニューページを表示します。
My MENU	“My MENU SELECTION” で選択したメニューページだけを表示します。

“My MENU SELECTION”

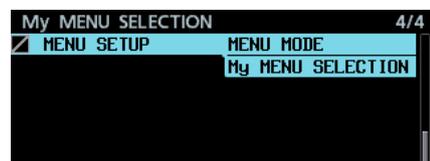
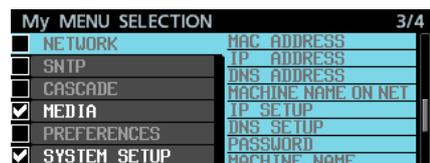
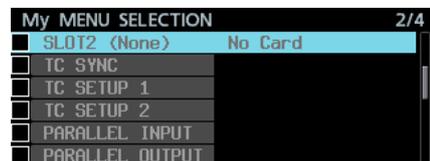
“MENU MODE” を “My MENU” に設定した際のメニューページの表示/非表示を設定します。

1. “My MENU SELECTION” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“My MENU SELECTION” 画面に切り換わります。



2. 画面左側には、ページ名と表示/非表示の設定を示すチェックボックスが表示されます。チェックマークがオンのページは表示、オフのページは非表示となります。画面右側には、カーソルで選択されたページの設定項目名が一覧表示されます。
3. MULTI JOGダイヤルを回して表示/非表示を切り換えたいページを選択します。MULTI JOGダイヤルを押すと、チェックマークのオン/オフが切り換わります。チェックマークがオフのページ名と設定項目名は、グレイアウト表示されます。

設定例：



メモ

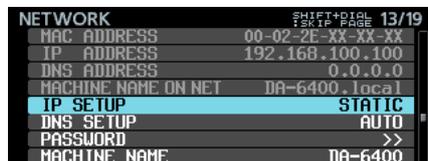
- “MENU SETUP” ページは常時表示する必要があるため、チェックマークではなく“”が表示され、非表示に設定することはできません。
- “MENU MODE” を “FULL MENU” に切り換えることで、ページの表示/非表示設定を維持したまま、全てのメニューページを表示することができます。

mDNS (Multicast DNS) に対応し、ネットワーク接続を簡単化

mDNS (Multicast DNS) に対応しました。

これにより Mac OS やmDNS対応のTelnet、VNC、FTPのアプリからDA-6400のネットワーク接続が簡単にできるようになりました。mDNS機能により Mac OS やmDNS対応アプリに表示されるDA-6400の名称は、メニュー画面の“**NETWORK**” ページに追加された“**MACHINE NAME**” で設定します。

実際に Mac OS やmDNS対応アプリ上に表示される名称は“**MACHINE NAME ON NET**” 欄に表示されるものとなります。



MACHINE NAMEの変更

メニュー画面の“**NETWORK**” ページで“**MACHINE NAME**” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“**MACHINE NAME**” の編集画面に切り換わります。



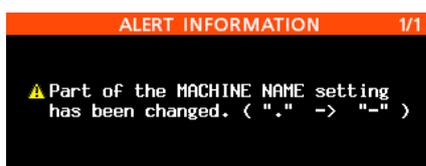
“**MACHINE NAME**” の編集方法については、取扱説明書「第4章 録音」の「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

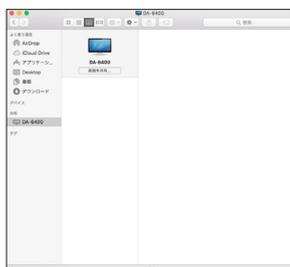
- “**MACHINE NAME**” の編集画面では「.」は入力できません。
- 起動時やSystem DataのImport時に、“**MACHINE NAME**” 設定に「.」が含まれていた場合、自動的に「.」を「-」に変換します。

その際、INFOインジケータが赤く点灯し、“**ALERT INFORMATION**” 画面に下記メッセージが表示されます。

このアラート表示は、一度確認すると表示されません。



- 本機を Mac OS と同じネットワークに接続すると、“**MACHINE NAME ON NET**” に表示された名前が Mac OS 上のファイダーの「共有」に以下のように表示されます。



この名前の《**画面を共有...**》をクリックすると、この名前を持つ機体へのVNC接続を開始します。

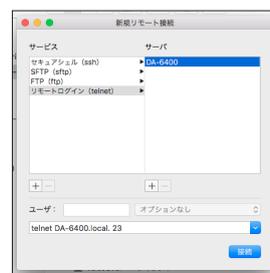


パスワード入力画面に“**NETWORK**” ページの“**PASWORD**” で設定したパスワードを入力すると、VNC接続が開始され、Mac OS 上で本機と同じ画面表示/操作等ができるようになります。



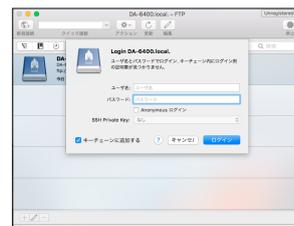
VNCについては、取扱説明書「第7章 内部設定詳細」の「VNC (ヴァーチャル・ネットワーク・コンピューティング)」を参照ください。

- 以下は、Mac OS のTerminalでの表示例です。
《**Remote Login (telnet)**》のServerリストに“**MACHINE NAME ON NET**” に表示された名前が表示されます。



- 以下は、mDNSに対応したFTPアプリケーションでの表示例です。

Bonjourリストに“**MACHINE NAME ON NET**” に表示された名前が表示されています。



VNCサーバーの2種類の圧縮転送フォーマットに対応

VNCサーバーの2種類の圧縮転送フォーマットに対応し、通信量を1/10～1/20に削減可能となりました。これにより、通信速度が遅いネットワーク経由でも、メーターやタイムカウンターの表示がスムーズに動くようになります。

メニュー画面“REC FILE FORMAT”ページの“FILE NAME”設定に“None”を追加

メニュー画面“REC FILE FORMAT”ページの“FILE NAME”設定に“None”を追加しました。
この設定で録音されるファイル名は、以下のようになります。

T[テイク番号]_[番号3桁]_[チャンネル番号2桁].wav

例：	T001_001_01.wav	T002_001_01.wav
	T001_001_02.wav	T002_001_02.wav
	：	：
	T001_001_63.wav	T002_001_63.wav
	T001_001_64.wav	T002_001_64.wav

メニュー画面のSNTPページに現在日時の表示を追加

NTPサーバーとの時刻同期の状況を確認しやすくするため、メニュー画面の“SNTP”ページに現在日時の表示を追加しました。

SNTP	SHIFT+DIAL SKIP PAGE 14/19
SNTP STATUS	Server Name not found
CURRENT TIME	2016/06/02 13:04:42
SNTP UPDATE	Start Up/24h cycle
NTP SERVER	ntp.nict.jp
UPDATE TIME	10:00-10:09
TIME ZONE	+09:00
DST SETUP	Disable

INFORMATION画面にカレントフォルダー名の表示を追加

“INFORMATION”画面にカレントフォルダー名の表示を追加しました。

INFORMATION	
CLOCK	48kHz WORD* (Regained)
FILE	BWF 24bit 64ch MONO 2015/04/06 18:22
FOLDER	DA Files

録音中にバッファオーバーフローが発生した場合のマークポイント設定

録音中にバッファオーバーフローが発生した場合、自動的にバッファオーバーフロー発生時刻のマークポイントを設定するようにしました。
この場合のマークポイント名は、“BOF”となります。
なお、バッファオーバーフローが解消されるまでの記録音声は無音となります。

マスタークロックに同期していないときの表示方法の変更

マスタークロックに同期していないときのオーディオ同期の状態表示を「緑インジケータの点滅」から「赤い背景／赤いインジケータの点滅」に変更し、クロックエラーの発生がより分かり易いようにしました。

BWFファイルのBEXTチャンクデータにTrack Namesなどのメタデータを追加

BWFファイルのBEXTチャンクデータにTrack Namesなどのメタデータを追加しました。

BWFファイルにTrack NamesなどのメタデータのiXMLチャンクデータを追加

BWFファイルにTrack NamesなどのメタデータのiXMLチャンクデータを追加しました。

ファームウェアV1.50の新機能

ファームウェアV1.50より、次の新機能を追加しました。

- 各トラックの録音ファイル名に任意の名前を付加できるTRACK NAMES機能を追加しました。

TRACK NAMES機能を追加

各トラックの録音ファイル名に任意の名前を付加できるTRACK NAMES機能を追加しました。

メニュー画面“REC FILE FORMAT”ページに追加された“TRACK NAMES”項目と“EDIT TRACK NAMES”項目で設定を行います。



TRACK NAMES MODE

TRACK NAMES機能の動作モードを選択します。

選択肢

- “OFF” (初期値) : 録音ファイル名にトラック名を付加しません。
- “ON” : 録音ファイル名に“EDIT TRACK NAMES”画面で設定されたトラック名を付加します。

メモ

“EDIT TRACK NAMES”画面のトラック名設定が空の場合、“TRACK NAMES MODE”項目が“ON”でも録音ファイル名にトラック名は付加されません。

各チャンネルのトラック名の変更手順

1. メニュー画面“EDIT TRACK NAMES”項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“EDIT TRACK NAMES”画面に切り換わります。



2. MULTI JOGダイヤルでトラック名を変更したいチャンネルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと選択したチャンネルのトラック名変更画面に切り換わります。



名前の編集方法については、取扱説明書「第4章 録音」の「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

- 以下のトラック名は、トラック番号と区別が付かなくなるため入力できません。

- 2桁の数字 (例: 01)
- 末尾がアンダースコア+2桁の数字 (例: Mic_01)
- 先頭が2桁の数字+アンダースコア (例: 01_Mic)
- アンダースコア+2桁の数字+アンダースコアを含む (例: Mic_01_sub)

これらのトラック名を入力して“ENTER”にカーソルを合わせてMULTI JOGダイヤルを押すと、以下のメッセージが表示されます。



以下のトラック名は入力できます。

- 「-01」 : ハイフン+2桁数字
- 「001」 : 3桁数字
- 「1」 : 1桁数字
- 「Mic01」 : 英字+アンダースコア無しの2桁の数字
- 「Mic-01」 : 英字+ハイフン+2桁の数字
- 「01Mic」 : アンダースコア無しの2桁の数字+英字
- 「01-Mic」 : 2桁の数字+ハイフン+英字
- 「Mic01_sub」 : 2桁数字と前後の書式が「_nn」ではない
- 「Mic_01sub」 : 2桁数字と前後の書式が「_nn」ではない

- 起動時やSystem DataのImport時に、ルール違反のTRACK NAME設定があった場合は、ルール違反のTRACK NAME設定を下記変換ルールに則って自動的に変換します。

「nn」 → 「-nn」
 「_nn」 → 「-nn」
 「nn_」 → 「-nn_」
 「_nn_」 → 「-nn_」
 (nn : 2桁の数字)

その際、INFOインジケータが赤く点灯し、“ALERT INFORMATION”画面に下記メッセージが表示されます。このアラート表示は、一度確認すると表示されません。



“TRACK NAMES MODE” がONの時の録音ファイル名の形式

“TRACK NAMES MODE” がオンに設定されている場合、録音ファイル名は以下の形式になります。

Tnnn_<name>_TTT_tt_<TrackName>.wav
nnn : 番号
<name> : “REC FILE FORMAT” 画面 “FILE NAME” の
 設定に従った名前
TTT : 番号
tt : トラック番号
TrackName : トラック名

例)

- チャンネル32のトラック名が “**Mic01**” の場合のファイル名
T001_20170501-203015_001_32_Mic01.wav
- チャンネル33のトラック名が “**Guitar**” の場合のファイル名
T001_20170501-203015_001_33_Guitar.wav

注意

バージョン1.50より前のDA-6400では、トラック名が付加されたファイルを含んだテイクを同一のテイクとして認識できず、トラック名が付加されたファイルが1ファイルだけのテイクとして誤認識されてしまいます。

トラック名が付加されたファイルを含んだテイクを再生したい場合は、再生するDA-6400のファームウェアバージョンを1.50以上にアップデートしてください。

バージョン1.50より前のDA-6400で再生させたい場合は、テイクのファイル名にトラック名を付加しないようにしてください。

ファームウェアV1.40の新機能

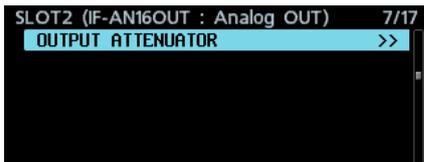
ファームウェアV1.40より、次の新機能を追加しました。

- アナログ出力インターフェースカード TASCAM IF-AN16/OUT に対応しました。

アナログ出力インターフェースカード TASCAM IF-AN16/OUT対応

アナログ出力インターフェースカード TASCAM IF-AN16/OUT に対応しました。

本機のSLOT 1またはSLOT 2に装着すると、メニュー画面の“SLOT1” ページまたは“SLOT2” ページに下記内容が表示されます。



メモ

- IF-AN16/OUTは、本機のマスタークロックに設定できません。設定しようすると下記ポップアップメッセージが表示されます。



- スロットカードをIF-AN16/OUTに差し換えた際や“SYSTEM BACKUP”設定をインポートした際、「マスタークロックがIF-AN16/OUT」という不正な状態が発生することがあります。この場合、マスタークロックの設定が自動的に“Internal”に切り換えられ、INFOインジケータが赤色点灯します。この状態で“INFORMATION”画面を表示すると、下記アラートメッセージが表示されます。このメッセージは、一度確認すると表示されなくなります。



- 本機の入力信号に、IF-AN16/OUTが装着されているスロットの入力信号をアサインしている場合、“PREFERENCES”ページの“NO SIGNAL ERROR CHECK”項目が“ON”に設定されていると、INFOインジケータが赤色点灯し“ERROR INFORMATION”画面に“SLOT1 has no signal”のようなエラーメッセージが表示されます。

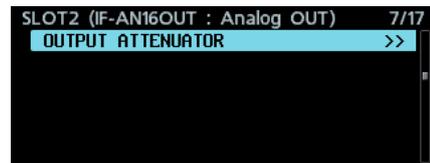


このようなエラー表示をしたくない場合は、“PREFERENCES”ページの“NO SIGNAL ERROR CHECK”項目を“OFF”に設定してください。

出力レベルの調整

接続する機器に合わせてIF-AN16/OUTの出力レベルを16チャンネル個別または一括で調整することができます。

1. メニュー画面の“SLOT1” ページまたは“SLOT2” ページの“OUTPUT ATTENUATOR”項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、該当スロットのOUTPUT ATTENUATOR設定一覧表示に切り換わります。

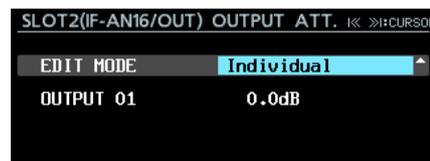


[“SLOT2” ページ]



[OUTPUT ATTENUATOR設定一覧]

2. MULTI JOGを回して設定を変更したいチャンネルを選択し、MULTI JOGダイヤルを押すとOUTPUT ATTENUATOR設定変更画面に切り換わります。



[OUTPUT ATTENUATOR設定変更画面]

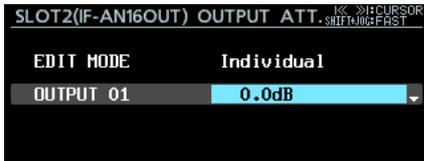
3. “EDIT MODE”項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを回して設定値の変更方法を選択します。

MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルが次の項目へ移動します。◀◀ / ▶▶ ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。

選択肢	内容
“Individual” (初期値)	1チャンネルごとに設定を変更します。
“ALL”	全16チャンネルの設定を一括で変更します。
“BATCH SETUP”	指定した複数チャンネルの設定を一括で変更します。

4. 出力レベルを調整します。
 選択肢：“0.0dB”（初期値）～“-14.0dB”（0.5dB/step）

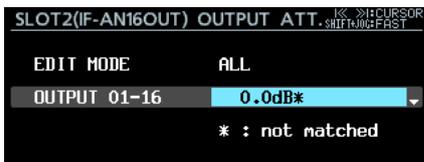
4.1 EDIT MODE：“Individual”時



選択枠の左側には、step1で選択した出力チャンネル名が表示されます。

MULTI JOGダイヤルを回すと、出力レベルを変更/設定します。
 MULTI JOGダイヤルを押すと、OUTPUT ATTENUATOR 設定一覧画面に切り換わります。

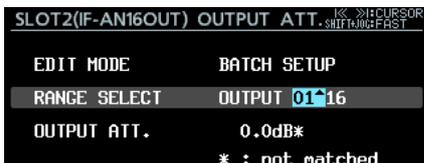
4.2 EDIT MODE：“ALL”時



MULTI JOGダイヤルを回すと、全チャンネルの出力レベルを変更/設定します。

MULTI JOGダイヤルを押すと、表示されている出力レベル値が全チャンネルに設定され、OUTPUT ATTENUATOR 設定一覧画面に切り換わります。

4.3 EDIT MODE：“BATCH SETUP”時



2行目の選択枠の左側には、“RANGE SELECT”と表示されます。

MULTI JOGダイヤルまたは◀◀ / ▶▶ ボタンを押して水色のカーソルを移動し、MULTI JOGダイヤルを回して設定を変更したいチャンネルの開始番号と終了番号を設定します。
 一番下の“OUTPUT ATT.”項目に水色のカーソルを移動し、MULTI JOGダイヤルを回すと、対象チャンネルの出力レベルを変更/設定します。

MULTI JOGダイヤルを押すと、表示されている出力レベル値が対象チャンネルに設定され、OUTPUT ATTENUATOR 設定一覧画面に切り換わります。

メモ

- “EDIT MODE”項目が“ALL”とき、出力レベル値にはOUTPUT 01の設定が表示されます。
- “EDIT MODE”項目が“BATCH SETUP”とき、出力レベル値には“RANGE SELECT”項目で選択した開始チャンネルの設定が表示されます。
- 操作対象チャンネルの設定値が一致していない場合、出力レベル値末尾に“*”が表示されます。該当スロットの操作対象チャンネルの設定値が全て一致している場合、“*”は表示されません。

ファームウェアV1.30の新機能

ファームウェアV1.30より、次の新機能を追加しました。

- iPad 専用リモートコントロールアプリケーション TASCAM DA-6400 Control対応の追加
- AES/EBUインターフェースカード TASCAM IF-AE16 対応の追加
- SMPTEタイムコードに同期してカレントテイクを再生する機能の追加 (V3.10で機能をアップデートしました)
- リPEAT再生機能の動作モード・VAMPINGモードの追加
- 1チャンネルごとの入出力信号ルーティング設定の追加
- NO SIGNAL エラー確認機能のオン/オフ設定の追加
- ボタンの長押しで録音を停止させる機能の追加

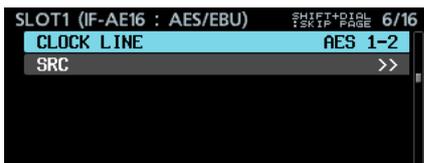
iPad 専用リモートコントロールアプリケーション TASCAM DA-6400 Control対応の追加

iPad 専用リモートコントロールアプリケーション TASCAM DA-6400 Controlに対応しました。

AES/EBUインターフェースカード TASCAM IF-AE16 対応の追加

AES/EBUインターフェースカード TASCAM IF-AE16に対応しました。

本機のSLOT 1またはSLOT 2に装着すると、メニュー画面の“SLOT1” ページまたは“SLOT2” ページに下記内容が表示されます。



CLOCK LINE

IF-AE16を装着したスロットを本機のクロックマスターに選択した場合にクロックマスターとする信号ラインを選択します。



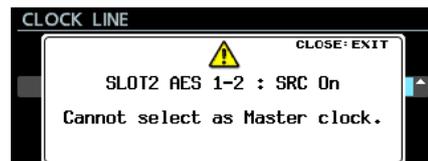
選択肢：“AES 1-2” (初期値)、“AES 3-4”、“AES 5-6”、“AES 7-8”、“AES 9-10”、“AES 11-12”、“AES 13-14”、“AES 15-16”

メモ

- IF-AE16が装着されたスロットがマスタークロックに選択されている場合、“GENERAL” ページの“CLOCK MASTER” 項目から表示される“CLOCK” 画面でも“CLOCK LINE” 項目の設定を切り換えることができます。また、IF-AE16が装着されたスロットをマスタークロックに選択する場合は、“APPLY” 表示にカーソルを合わせてMULTI JOGダイヤルを押すことで設定が切り換わります。

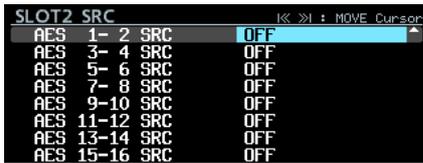


- “SRC” 項目が“ON” に設定された信号ラインは、マスタークロックとして選択できません。この場合、下記ポップアップメッセージが表示されます。



SRC

各信号ラインのサンプルレートコンバーターのオン/オフを設定します。



選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

メモ

- マスタークロックに選択されている信号ラインは、“SRC”項目を“ON”に切り換えできません。この場合、下記ポップアップメッセージが表示されます。

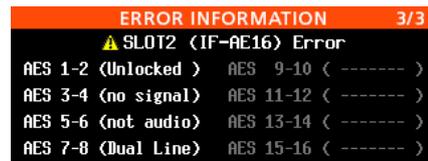


- IF-AE16を装着した際、本体に設定されている“SRC”項目の設定とクロックマスター設定によっては、「CLOCK MASTERに選択されているIF-AE16信号ラインのSRCがON」という不正な状態が発生することがあります。この場合、該当信号ラインの“SRC”項目の設定が自動的にオフに切り換えられ、INFOインジケータが赤色点灯します。この

状態でINFOボタンを押すと、下記のアラートメッセージが表示されます。このメッセージは、一度確認すると表示されなくなります。



- IF-AE16の入力信号にエラーが発生している場合、INFOインジケータが赤色点灯します。この状態でINFOボタンを押すと、下記のような内容が表示されます。ただし、入力信号にエラーがあってもミュートしません。



- Unlocked : 入力信号が本機と同期していません。
- no signal : 入力信号がありません。
- not audio : 入力信号のCbit情報が「非オーディオ」になっています。
- Dual Line : 入力信号のCbit情報が「デュアルライン」になっています。

SMPTEタイムコードに同期してカレントテイクを再生する機能の追加

リアパネルのTIMECODE IN端子に入力されるSMPTEタイムコードに同期してカレントテイクを再生する機能を追加しました。これにともない、メニュー画面に“TC SYNC”ページを追加しました。

タイムコード同期再生の設定

メニュー画面の“TC SYNC”ページを使って、タイムコード同期再生の設定を行います。



TC CHASE MODE

タイムコード同期運転動作のオン/オフを設定します。



選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”、“ALWAYS ON”

メモ

- “ALWAYS ON”の選択肢は、V3.10で追加しました。
- フロントパネルのSHIFTボタンを押しながらII [CHASE] ボタンを押すことでもオン/オフの切り換えができます。
- “TC CHASE MODE”が“ON”のときは、以下の条件で“OFF”になります。
 - 電源を「OFF」にしたとき
 - メディアを入れ替えたとき
 - プレイリストモードに切り替えたとき

- “TC CHASE MODE”が“ALWAYS ON”のときは、上記の条件でも“OFF”に変わりません。ただし、以下の条件では同期再生を行いません。

- ・プレイリストモードのとき

TC CHASE OFFSET

入力タイムコードに対するタイムコードオフセットを設定することができます。



“-23:59:59.29”から“+23:59:59.29”の範囲で設定できます。(初期値: “+00:00:00.00”)

TC RECHASE MODE

タイムコード同期再生中に同期がずれた場合に、再同期する機能のオン/オフを設定します。



選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

“OFF”に設定した場合には、一度同期したあとは入力タイムコードを無視して自由走行するフリーランモードとして動作します。“ON”に設定した場合には、“TC RECHASE THRESH”画面で設定したしきい値以上同期がずれた段階でリチェイス動作を開始します。

TC RECHASE THRESHOLD

リチェイス動作を開始する同期ずれのしきい値を設定します。



選択肢：“1/3frame”、“1frame”、“2frame”（初期値）、“5frame”、“10frame”

同期再生の操作手順

1. 同期再生させたいテイクをカレントテイクにします。
2. 以下のいずれかの操作で同期運転をオンにします。
 - フロントパネルのSHIFTボタンを押しながら **[CHASE]** ボタンを押す。
 - メニュー画面の“TC SYNC” ページで“TC CHASE MODE”項目を“ON”に設定する。

停止状態でオンにした場合は、再生待機状態になります。このとき、ホーム画面の“TC”インジケータが“CHASE”インジケータに変わり点滅します。また、ホーム画面のテイク番号の表示が消灯します。

3. 再生待機状態で入力タイムコードがスタートすると、自動的に再生状態に切り換わり、ホーム画面の“CHASE”インジケータが緑色に点灯します。
入力タイムコードがカレントテイクと一致しない場合、音は出

きされません。

この際、ホーム画面のテイク名表示部には“no take at current time”と表示されます。



入力タイムコードがカレントテイクと一致した場合、カレントテイクの音が出され、ホーム画面のテイク名表示部にテイク名が表示されます。



4. タイムコード同期再生中に **[STOP]** ボタンを押すと、再生を停止します。
このとき、ホーム画面の“CHASE”インジケータが点滅します。
5. 停止状態でタイムコード同期再生を再開するには、**[PLAY]** ボタンか **[CHASE]** ボタンを押します。
6. 同期運転をオフにするには、以下のいずれかの操作をします。
 - フロントパネルのSHIFTボタンを押しながら **[CHASE]** ボタンを押す。
 - メニュー画面の“TC SYNC” ページで“TC CHASE MODE”項目を“OFF”に設定する。

このとき、ホーム画面の“CHASE”インジケータは、“TC”インジケータに戻ります。

リピート再生機能の動作モード・VAMPINGモードの追加

リピート再生機能の動作モードに“VAMPING”を追加しました。これにとまない、メニュー画面の“PLAY SETUP”ページの“REPEAT MODE”項目の選択肢が、下記の3種類になりました。

選択肢	リピートアイコン	内容
“OFF”（初期値）		リピート再生しない設定です。
“NORMAL”		通常のリピート再生をする設定です。
“VAMPING”		今回新たに追加されたリピート再生の動作モードです。

REPEAT MODE : VAMPING時の動作

このモードに設定すると、“PLAY MODE”画面の設定状態に関わらず、カレントテイクをリピート再生します。リピート再生中に **[STOP]** ボタン*を押すと、カレントテイクの最後まで再生したあと、自動的に次のテイクに移行してリピート再生します。

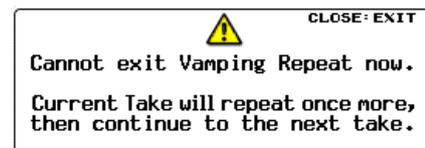
* 本体フロントパネルおよび、パラレル、シリアル、ネットワークの各種コントロールからの再生開始操作

このモードの間、ホーム画面のリピートアイコンに **[VAMPING]** マークが追加表示されます。

リピート再生中に **[STOP]** ボタンが押されて次テイクに移行するまでの間、リピートアイコンの **[VAMPING]** マークが点滅表示に切り換わります。次テイクに移行すると **[VAMPING]** マークが点灯表示に切り換わります。

メモ

- 再生中のカレントテイクの残り時間が5秒未満に **[STOP]** ボタンを押された場合は、下記メッセージが表示され、もう一度テイク先頭から末尾までリピート再生したあとに次テイクへの移行動作が行われます。
この場合は、テイク先頭に戻ったあとに **[VAMPING]** マークが点滅表示に切り換わります。

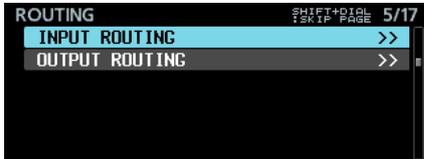


- 次テイクに移行するまでの間（**[VAMPING]** マーク点滅中）に、停止/再生待機/早送り/早戻し/スキップ/マークスキップの各動作を行った場合は、次テイクへの移行動作は取り消され、カレントテイクのリピート再生状態になります。
この際、**[VAMPING]** マークが点灯表示に切り換わります。

1チャンネルごとの入出力信号ルーティング設定の追加

入力信号のルーティング設定が1チャンネルごとに行えるようになりました。また、出力信号のルーティング設定ができるようになりました。

これにともない、メニュー画面の“INPUT ROUTING1”ページと“INPUT ROUTING2”ページは、“ROUTING”ページに変更となりました。



入力信号のルーティング設定

入力信号のルーティングを設定します。

1. “ROUTING” ページを表示して “INPUT ROUTING” 項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押すと、“INPUT ROUTING” 設定一覧表示に切り換わります。



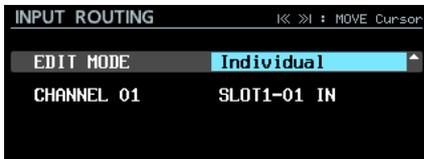
[“INPUT ROUTING” 設定一覧表示]

メモ

入力信号が64チャンネル未満のインターフェースカードを装着している場合、無効な入力端子名は灰色で表示されます。例えば、16チャンネル/0のIF-AE16をSLOT1に装着している場合は、“SLOT1-17 IN”～“SLOT1-64 IN”が灰色で表示されます。



2. MULTI JOGダイヤルを回して設定を変更したいチャンネルを選択しMULTI JOGダイヤルを押すと、“INPUT ROUTING” 設定変更画面に切り換わります。



[“INPUT ROUTING” 設定変更画面]

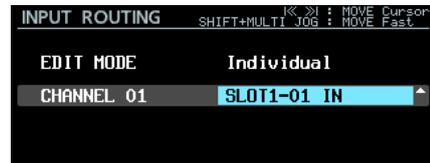
3. “EDIT MODE” 項目を選択して、設定値の変更方法を選択します。MULTI JOGダイヤルを押してEDIT MODEを確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。◀◀ / ▶▶ ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。

選択肢

- “Individual” (初期値) : 1チャンネルごとに設定を変更します。
- “8ch BLOCK” : 8チャンネルずつまとめて設定を変更します。
- “BATCH SETUP” : 指定した複数チャンネルの設定を一括で変更します。

4. 選択した“EDIT MODE”項目に対して操作が異なります。

- EDIT MODE : “Individual” 選択時



選択枠の左側には、手順1. で選択したチャンネル名が表示されます。

MULTI JOGダイヤルを回して入力信号を選択します。

選択肢 : “SLOT1-01 IN”～“SLOT1-64 IN”

“SLOT2-01 IN”～“SLOT2-64 IN” (128種類)

MULTI JOGダイヤルを押して設定値を確定すると、“INPUT ROUTING” 設定一覧表示に切り換わります。

- EDIT MODE : “8ch BLOCK” 選択時



選択枠の左側には、手順1. で選択したチャンネルが含まれる8チャンネルのブロックが表示されます。

MULTI JOGダイヤルを回して、入力信号ブロックを選択します。

選択肢 : “SLOT1 01-08”、“SLOT1 09-16”、“SLOT1 17-24”、

“SLOT1 25-32”、“SLOT1 33-40”、“SLOT1 41-48”、

“SLOT1 49-56”、“SLOT1 57-64”、“SLOT2 01-08”、

“SLOT2 09-16”、“SLOT2 17-24”、“SLOT2 25-32”、

“SLOT2 33-40”、“SLOT2 41-48”、“SLOT2 49-56”、

“SLOT2 57-64” (16種類)

MULTI JOGダイヤルを押して設定値を確定すると、“INPUT ROUTING” 設定一覧表示に切り換わります。

- EDIT MODE : “BATCH SETUP” 選択時

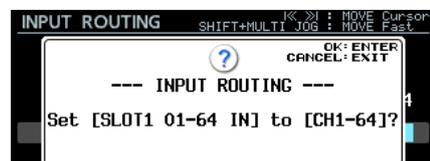


選択枠の左側には、“RANGE SELECT” 項目と表示されます。

MULTI JOGダイヤルまたは◀◀ / ▶▶ ボタンを押して水色のカーソルを移動し、MULTI JOGダイヤルを回して以下を設定します。

- 設定を変更したいチャンネルの開始番号と終了番号
- ルーティングしたい入力信号のスロット番号と入力端子の開始番号

“APPLY” に水色のカーソルを移動してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認ポップアップメッセージが表示されます。



確認ポップアップメッセージ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、指定した複数チャンネルの設定を一括で変更し、“**INPUT ROUTING**”設定一覧表示に切り換わります。

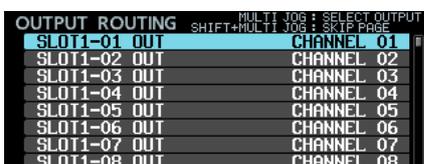
確認ポップアップメッセージ表示中に**EXIT [PEAK CLEAR]**ボタンを押すと、メッセージを閉じます。

出力信号のルーティング設定

出力信号のルーティングを設定します。



1. “**ROUTING**” ページを表示して “**OUTPUT ROUTING**” を選択し **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、“**OUTPUT ROUTING**” 設定一覧表示に切り換わります。

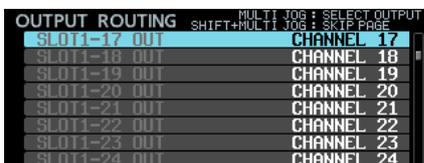


[“**OUTPUT ROUTING**” 設定一覧表示]

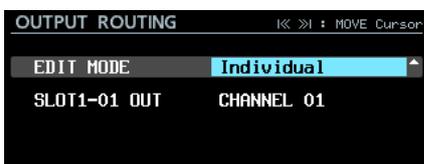
メモ

出力信号が64チャンネル未満のインターフェースカードを装着している場合、無効な出力端子名は灰色で表示されます。

例えば、16チャンネル/OのIF-AE16を**SLOT1**に装着している場合は、“**SLOT1-17 OUT**”～“**SLOT1-64 OUT**”が灰色で表示されます。



2. **MULTI JOG**ダイヤルを回して設定を変更したい出力端子を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと “**OUTPUT ROUTING**” 設定変更画面に切り換わります。



[“**OUTPUT ROUTING**” 設定変更画面]

3. “**EDIT MODE**” 項目を選択して、設定値の変更方法を選択します。

MULTI JOGダイヤルを押して **EDIT MODE** を確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。◀◀ / ▶▶ ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。

選択肢

- “**Individual**” (初期値) : 1チャンネルごとに設定を変更します。
- “**8ch BLOCK**” : 8チャンネルずつまとめて設定を変更します。
- “**BATCH SETUP**” : 指定した複数チャンネルの設定を一括で変更します。

4. 選択した “**EDIT MODE**” 項目に対して操作が異なります。

- **EDIT MODE** : “**Individual**” 選択時



選択枠の左側には、手順1. で選択した出力端子名が表示されます。

MULTI JOGダイヤルを回して出力信号を選択します。

選択肢 : “**CHANNEL 01**”～“**CHANNEL 64**” (64種類)

MULTI JOGダイヤルを押して設定値を確定すると、“**OUTPUT ROUTING**” 設定一覧表示に切り換わります。

- **EDIT MODE** : “**8ch BLOCK**” 選択時



選択枠の左側には、手順1. で選択した出力端子が含まれる8チャンネルのブロックが表示されます。

MULTI JOGダイヤルを回して出力信号ブロックを選択します。

選択肢 : “**CHANNEL 01-08**”、“**CHANNEL 09-16**”、“**CHANNEL 17-24**”、“**CHANNEL 25-32**”、“**CHANNEL 33-40**”、“**CHANNEL 41-48**”、“**CHANNEL 49-56**”、“**CHANNEL 57-64**” (8種類)

MULTI JOGダイヤルを押して設定値を確定すると、“**OUTPUT ROUTING**” 設定一覧表示に切り換わります。

- **EDIT MODE** : “**BATCH SETUP**” 選択時

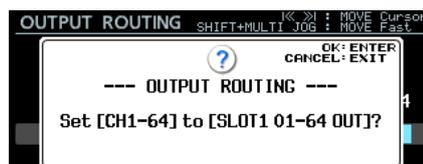


選択枠の左側には、“**RANGE SELECT**” 項目と表示されます。

MULTI JOGダイヤルまたは◀◀ / ▶▶ ボタンを押して水色のカーソルを移動し、**MULTI JOG**ダイヤルを回して以下を設定します。

- 設定を変更したいスロット番号と出力端子の開始番号と終了番号
- ルーティングしたいチャンネルの開始番号

“**APPLY**” に水色のカーソルを移動して **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、確認ポップアップメッセージが表示されます。



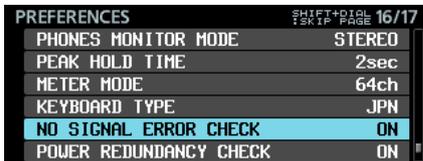
確認ポップアップメッセージ表示中に **MULTI JOG**ダイヤルを押すと、指定した複数チャンネルの設定を一括で変更し、“**OUTPUT ROUTING**” 設定一覧表示に切り換わります。

確認ポップアップメッセージ表示中に **EXIT [PEAK CLEAR]** ボタンを押すと、メッセージを閉じます。

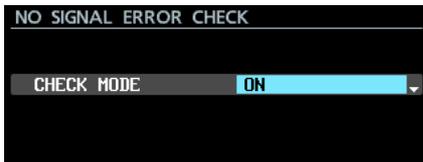
NO SIGNAL エラー確認機能のオン／オフ設定の追加

オーディオ信号を入力しないで本機を使用したい場合（再生専用機など）に、“no signal” エラーを表示しないようにする設定を追加しました。

メニュー画面の“PREFERENCES” ページに追加された“NO SIGNAL ERROR CHECK” 項目で“NO SIGNAL” エラー確認機能のオン／オフを設定します。



["PREFERENCES" ページ]



["NO SIGNAL ERROR CHECK" 画面]

選択肢

“ON”（初期値）：オーディオ入力信号が接続されていないとき、入力信号の接続が切れた状態と判断し、INFOインジケータを赤色に点灯し、“ERROR INFORMATION” 画面に“SLOT1 has no signal” のようなエラーメッセージを表示します。

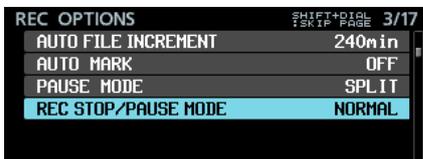


“OFF”：オーディオ入力信号が接続されていない場合でも、INFOインジケータを赤色点灯せず、“ERROR INFORMATION” 画面にエラーメッセージを表示しません。オーディオ信号を入力しないで本機を使用したい場合（再生専用機など）に、この設定にします。

ボタンの長押しで録音を停止させる機能の追加

録音中の誤操作による録り直し防止のために、ボタンの長押しで録音を停止させる機能を追加しました。

メニュー画面の“REC OPTIONS” ページに追加された“REC STOP/PAUSE MODE” 項目で、ボタンの長押しで録音を停止させる機能の設定を変更します。



["REC OPTIONS" ページ]



["REC STOP/PAUSE MODE" 画面]



メモ

この機能は、下記操作子によるSTOP / PAUSE操作に対してのみ有効です。

- フロントパネル
- USBキーボード
- パラレル端子
- VNCビューワ経由のキーボード

RS-422とTelnetによるSTOP / PAUSEコマンドの場合は、この機能の設定に関わらず、即座に録音停止 / 録音一時停止します。

選択肢

“NORMAL”（初期値）：

録音中に ■ ボタン / || [CHASE] ボタンを押すと、即座に録音停止 / 録音一時停止します。

“HOLD”：

録音中に ■ ボタン / || [CHASE] ボタンを3秒間押し続けると、録音停止 / 録音一時停止します。

録音中に ■ ボタン / || [CHASE] ボタンを押し続けた時間が3秒未満の場合、録音を継続し、下記メッセージを表示します。

ファームウェアV1.21の新機能

ファームウェアV1.21より、次の新機能を追加しました。

- Danteインターフェースカード TASCAM IF-DA64対応

Danteインターフェースカード TASCAM IF-DA64対応

Danteインターフェースカード TASCAM IF-DA64 に対応しました。
本機のSLOT 1またはSLOT 2に装着すると、メニュー画面の“SLOT1” ページまたは“SLOT2” ページに、下記内容が表示されます。



STATUS

IF-DA64の動作状況を表示します。

- Available** : IF-DA64が正常に動作している
- Unavailable** : IF-DA64が正常に動作していない

取扱説明書・追補

FTP接続する際の注意事項

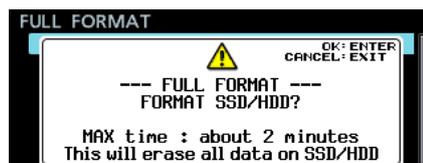
- 同時接続数は、「1」に設定してください。
- FTPクライアントアプリケーションによっては、本機にFTP接続が同時に2つできる場合もありますが、正常にファイルを転送できなくなる可能性がありますので、同時に2つ以上のFTP接続を本機に行わないでください。

機能説明追記／変更

- 17ページ「プレイリストモード時の制限事項」に、カスケードに関する項目を2つ追記しました。
- 28ページ「カレントフォルダーの全テイクでのタイムコード同期再生に対応」に、カスケードに関する制限事項や設定例を追記しました。
- ファームウェアV2.00で追加された“MACHINE NAME”設定には「.」を入力できないようになりました。
31ページ「MACHINE NAMEの変更」の項目に、メモとして追記済みです。
- ファームウェアV1.50で追加されたTRACK NAMES機能の説明のうち、トラック名の入力禁止ルールを2つ追加しました。
33ページ「TRACK NAMES機能を追加」の内容を、追加したルールに差し替え済みです。
- ファームウェアV1.30よりメニュー画面機能“FULL FORMAT”の表記を“FULL FORMAT (ERASE)”に変更しました。
これにともない、DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第3章 準備」の「SSD / HDD / USBメモリーを使えるようにする」の文言も同様に読み替えてください。
- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第3章 準備」の「SSD / HDD / USBメモリーを使えるようにする」に、以下を追記します。

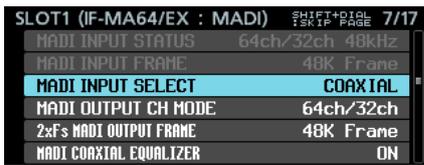
メモ

- フラッシュメモリを使ったSSDのようなストレージメディアは、書き込みを繰り返すことで書き込み速度が低下する傾向があります。
書き込み速度が低下すると、録音に悪影響を及ぼす可能性があります。
本機の“FULL FORMAT (ERASE)”を実行すると、SSDドライブの書き込み速度が回復します。*
そのため、下記タイミングで“FULL FORMAT (ERASE)”を実行することをお勧めします。
 - メディア残量がなくなるまで書き込んだ場合
 - 定期的（1か月程度）
 - 大事な録音の前
- * SSDドライブの状態（故障・寿命など）により、書き込み速度が回復しない場合もあります。
- “FULL FORMAT (ERASE)”実施前の確認ポップアップメッセージには、予想されるフォーマット所要時間が下記のように表示されます。



SSDドライブの状態によっては表示よりも長い時間がかかる可能性もありますので、時間に余裕を持って実施することをお勧めします。

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第4章 録音」の「IF-MA64/EXまたはIF-MA64/BNの場合」に、以下を追記します。



[IF-MA64/EX 挿入時の表示]

MADI COAXIAL EQUALIZER (IF-MA64/EXおよびIF-MA64/BNで

共通)

MADI COAXIAL入力信号へのイコライザーの設定を行います。低電圧のMADI COAXIAL信号源や長いBNCケーブルを使ってIF-MA64/EXおよびIF-MA64/BNに接続する場合、正常に受信できない場合があります。

このような場合には、“MADI COAXIAL EQUALIZER”項目を“OFF”に設定してお試しください。

選択肢：“ON”（初期値）、“OFF”

誤記訂正

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第4章 録音」の「ワード/ビデオ端子の設定をする」の記述に謝りがありましたので、訂正します。

選択肢 “THRU OUT/TERM-OFF” の記述内容の訂正

誤：WORD/VIDEO THRU/OU端子からの出力信号をWORD/VIDEO IN端子からのTHRU出力に設定、WORD/VIDEO IN端子の終端抵抗（75Ω）をオフに設定します。

正：WORD/VIDEO THRU/OUT端子からの出力信号をWORD/VIDEO IN端子からのTHRU出力に設定、WORD/VIDEO IN端子の終端抵抗（75Ω）をオフに設定します。

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第7章 内部設定詳細」の「ネットワーク機能の設定」の“IP SETUP”画面に関する記述に謝りがありましたので、訂正します。

“MODE”項目の初期値の訂正

誤：選択肢 “STATIC”（初期値）、“AUTO”

正：選択肢 “STATIC”、“AUTO”（初期値）

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「第7章 内部設定詳細」の「リモートコントロール（Telnet）」のメモの記述に誤りがありましたので、訂正します。

メモの2項目目の訂正

誤：“LOCK SETUP”画面の“EXTERNAL Control”項目が“LOCK”に設定されている場合は、Telnet接続できません。Telnet接続中に“LOCK”に設定されると、Telnet接続が切斷されます。

正：“LOCK SETUP”画面の“EXTERNAL Control”項目が“LOCK”に設定されている場合、Telnet接続はできますが、Telnetからの本機の操作や設定変更はできません。Telnet接続中に“LOCK”に設定されるとTelnet接続は継続されますが、Telnetからの本機の操作や設定変更はできません。

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「11章 各種設定／情報表示／キーボード操作」の「キーボード操作一覧」の記述に誤りがありましたので、訂正します。

フルキーボードキーの動作

Enterキー

誤：「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ（マークポイントを登録／削除）。

正：「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ（マークポイントを登録）。

テンキー（トランスポート操作のみ）の動作

Enterキー

誤：「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ（マークポイントを登録／削除）。

正：「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ（マークポイントを登録）。

- DA-6400/DA-6400dpの取扱説明書「11章 各種設定／情報表示／キーボード操作」の「システムバックアップデータをエクスポートする／インポートする」のシステムバックアップデータの保存・読み出し対象の設定項目の表に誤りがありましたので、訂正します。

誤：

画面名	ページ名	設定項目
“MENU”画面	“NETWORK”ページ	IP SETUP
		DNS SETUP
		PASSWORD

正：

画面名	ページ名	設定項目
“MENU”画面	“NETWORK”ページ	IP SETUP
		DNS SETUP